

平成21年度以降の魅力と活力ある
県立高校のあり方について

(答 申 案)

平成20年3月 日

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会

平成20年3月 日

島根県教育委員会
教育長 藤原 義光 様

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会
会長 井上 定彦

平成21年度以降の魅力と活力ある県立高校のあり方について(答申)

本検討委員会は、平成18年3月20付けで島根県教育委員会教育長から諮問のあった標記の事項について、慎重に審議した結果、ここに答申を得たので報告します。

目 次

1	検討の背景	1
2	検討の経過	1
3	今後の高校教育のあり方	1
	基本的な考え方	1
	普通高校のあり方	2
	専門高校のあり方	3
	総合学科のあり方	3
	専門学科のあり方	4
	中高一貫教育のあり方	6
	高校と中学校との連携による教育の推進	7
	特別支援教育への対応	7
	生涯学習社会における高校のあり方と地域社会の連携による教育の推進	7
4	再編成に関する基本的な考え方	8
5	再編成に関する基本的事項	9
	対象とする期間	9
	1学級当たりの定員	9
	適正規模	10
	統廃合基準	10
-	参考資料	-
	参考資料1 諮問文	11
	参考資料2 検討委員会設置要綱	13
	参考資料3 検討委員会委員名簿	14
	参考資料4 専門部会委員名簿	15
	参考資料5 検討経過	16
	参考資料6 島根県内の中学校卒業生数の推移	17
	参考資料7 地域別中学校卒業生数の推移と公立高校の学科・学級数	18
	参考資料8 中学校卒業生の高等学校等進学率の推移	33
	参考資料9 公立高校(全日制課程)の学科別募集学級数と生徒数の状況	34
	参考資料10 職業系の各専門学科と総合学科の各系列の特色	38
	参考資料11 公立高校(全日制課程)配置図	43
	参考資料12 高校(全日制課程)卒業生の進路状況	44
	参考資料13 学校視察の概要	48
	参考資料14 関係者からの意見聴取の概要	49
	参考資料15 パブリックコメントの結果	54

1. 検討の背景

本県の中学校卒業生数は、平成の時代になってからは平成元年3月の12,601人をピークに減少を続け、平成19年には7,563人となった。

島根県教育委員会では、これまで少子・高齢化や情報化など社会情勢の急速な変化に対応するため、平成11年度から平成20年度までを計画期間とする「県立学校再編成基本計画」及び、この計画の後期期間に相当する平成16年度から平成20年度までの具体的な再編成事項を示した「県立学校後期再編成計画」を策定し、県立高校の適正規模や統廃合基準などを示すとともに、学科改編や高校の統合などの再編成を進めてきた。

しかし、これらの計画が平成20年度までを対象としたものであること、県内の中学校卒業生数は平成21年度以降も減少傾向が続き、平成30年には6,100人余りになると予測されていること、また、中学校卒業生の高校等進学率が98%を超えており、今後も生徒の多様な学習ニーズに対応した高校教育が求められることなどから、今後の県立高校のあり方や再編成について、中・長期的な視点で検討する必要性が生じてきた。

2. 検討の経過

平成18年3月の諮問以来、~~これまで10~~これまで11回の検討委員会を開催するとともに、県立高校10校を視察した。審議は、県民の関心も高いことからすべて公開で行い、21名の委員はそれぞれの立場や経験をもとに議論を積み重ねた。審議の参考とするため、学校視察の際に生徒や教職員の意見を聞いたり、中山間地域や企業、学校後援会の関係者を招いて、地域における高校の存在・役割や県内産業を支える人材の育成、地域産業と学校との連携など高校教育に対する提言や期待、思いを聞いたりした。

このような議論を通して、魅力と活力ある県立高校づくりのためには、高校の配置や規模とともに、地域社会との連携や高校の社会的な役割なども含めた高校教育のあり方が重要であるとの点で意見が一致した。したがって、それも加えて提言することとした。

3. 今後の高校教育のあり方

基本的な考え方

高校教育においては、豊かな人間性や社会人として必要な勤労観・職業観の育成など、総合的な人間教育の場としての役割が求められており、小・中学校で育んだ生徒一人ひとりの個性や能力をさらに伸ばし、自立した社会生活が送れるように知・徳・体

アンダーライン部及び取消線~~————~~は、追加・修正した部分

の調和がとれた人間形成を目指していくべきである。このような人間形成を図っていくためには、本県の恵まれた自然環境や優れた伝統・文化などを活用することも必要である。

将来の地域や産業を担う人材を育成する高校教育においては、これまで以上に地域の人材や文化・自然・産業などの地域資源を活用するなど、地域との連携を深める必要がある。そのためには地域で活躍する企業関係者や卒業生をはじめとして、地域社会の協力・支援が必要不可欠である。

近年、ニートやフリーターなどが社会問題となっていることにも見られるように、勤労観・職業観が十分に培われていない。このため、生徒に働くことの意義や尊さを教えるとともに、将来の目標や職業意識をもたせるため、キャリア教育の一層の充実を図っていく必要がある。

かつては「普通高校からは進学、専門高校からは就職」という固定的な捉え方もあったが、今では高校卒業後の進路が多様化しており、教科・科目の選択幅の拡大など教育課程の一層の弾力化や学科改編、大学等の研究・教育機関との連携などを通して教育内容の一層の充実を図るとともに、総合学科や中高一貫教育の今後のあり方についても引き続き検討し、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに対応した魅力と活力ある学校づくりを目指していくべきである。

次代を担う生徒を育てる教員には、教職に対する誇りを持ち、知識・技能の研鑽を積むことに加えて、人としての生き方やあり方を自ら考え、培った幅広い視野を教育活動に生かしていくことが求められている。今後も自己研鑽に努めることはもとより、組織的な研修も充実していく必要がある。

以上述べた教育を推進するためには、行政や地域、企業・関係団体の総力をあげて取り組む必要がある。

普通高校のあり方

普通高校に学ぶ生徒の進路は大学、短大、専修学校などへの進学や就職など多岐にわたっている。本県では、これまでも、こうした進路希望に応じたきめ細かな教育が行われてきている。今後も基礎・基本の確実な定着を図りながら、生徒の興味・関心などが多様化している実態を踏まえて、能力・適性に応じた教育を行うとともに、特色ある学校づくりを推進するため、学校の実態や地域の特性に応じて、教育課程の一層の弾力化を図る必要がある。

また、普通高校においても、生徒に将来の目標や職業意識をもたせるため、県内定アンダーライン部及び取消線——は、追加・修正した部分

住も視野に入れたキャリア教育の一層の充実を図っていく必要がある。

専門高校のあり方

社会が著しく変化し、産業構造や就業構造が大きく変わりつつある中で、専門高校は生徒の自己実現を図り、将来のスペシャリストを育成する役割を担っている。そのためには、今後も各専門分野の基礎的・基本的な教育に重点を置くとともに、インターンシップや、各分野の専門性を生かした資格取得、各種コンテストへの参加など学習目標を具体的に提示して、生徒が自ら進んで学び続けようとする意欲や態度を育成していく必要がある。

また、専門高校では、入学直後からのキャリア教育や県内産業を意識した進路指導の一層の充実を図るとともに、卒業後は、就職だけではなく、大学、短大、専修学校などへ進学する者も増えていることから、生徒の進路希望に応じて教育課程を一層工夫する必要がある。

なお、本県には、若年者の県外流出や若年労働者の減少という課題があり、本県の産業振興に即した人材育成が求められている。若年者の県内定住を促進していくためには、魅力ある就業先の確保など、行政や企業・関係団体をあげた総合的な取り組みが必要である。本県の産業を担う人材の育成については、今後、どのような分野で、どのような人材を、どの程度必要とするのかなど、関係業界等からの具体的な提案が望まれる。このような提案を受け、それに対応した教育を行うことが必要である。

総合学科のあり方

普通科及び専門学科と並ぶ学科として総合学科がある。この学科は、生徒が学びたい科目を自分で選択し、自己の進路への自覚を深めるとともに、個性を生かした主体的な学習を通して、学ぶことの楽しさや成就感を体験することを目指しており、本県では専門学科から改編したものが3校、普通科から改編したものが1校に設置されている。

総合学科で開設される科目は選択幅が広く、生徒の多様なニーズに応じることが可能であり、そこに学ぶ生徒に好評である。しかし、その一方で、学校規模による教員数の制約などにより、総合学科本来のねらいを生かした教育課程の編成に限界があるなどの指摘もある。

今後、入学志願者の動向によっては、生徒や地域のニーズに応じた系列の見直しなど、さらに改善を行う必要がある。また、普通科からの改編については、実施から間もないため、当分の間、その成果と課題を検証する必要がある。

アンダーライン部及び取消線——は、追加・修正した部分

専門学科のあり方

理数科

本県の理数科は6校に設置されている。理数科においては、自然科学及び数学における基本的な概念、原理・法則などについての系統的な理解を深め、科学的、数学的に考察し、処理する能力と態度を育ててきた。科学技術が急速に進展する中で、今後も理数科の特性を生かした教育を推進していくとともに、探求的な学習を一層重視するなど、生徒や地域のニーズに応じて、教育内容や指導方法の改善に努める必要がある。

なお、前述の改善の成果や入学志願者の動向によっては、学科の存続の可否について検討する必要がある。

英語科

本県の英語科は1校に設置されている。英語科においては、授業以外にも、海外研修、イングリッシュキャンプなどの体験学習や留学生の受け入れなどにより、実践的コミュニケーション能力を身につけさせるとともに、異文化を理解し尊重する態度の育成を図っている。

近年、小学校においても英語活動が行われるようになり、英語教育に対するニーズは一層高まると予想されることから、今後も英語科の特性を生かした教育を推進していくとともに、生徒の多様なニーズに応じて、教育内容や指導方法の改善に努める必要がある。

なお、前述の改善の成果や入学志願者の動向によっては、学科の存続の可否について検討する必要がある。

体育科

本県の体育科は1校に設置されている。体育科においては、運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、心身の発達を最大限に伸長するとともに、体育・スポーツに関する教養を培い、体育・スポーツの指導者としての資質・能力の育成や競技力の向上を図ってきた。今後も体育科の特性を生かした教育を推進していくとともに、生徒の多様な進路ニーズに応じて、教育内容や指導方法の改善に努める必要がある。

アンダーライン部及び取消線——は、追加・修正した部分

農業に関する学科

本県の農業に関する学科は4校に設置されている。農業に関する学科においては、農業の各分野(食料供給・環境創造・バイオテクノロジー・ヒューマンサービスなど)に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる必要がある。また、農業のもつ公益的機能、文化的役割、社会的意義などについて理解させるとともに、農業のもつ教育力を活用することにより地域との連携を推進し、起業家精神をもち、地域の活性化に貢献できる人材を育成する必要がある。

工業に関する学科

本県の工業に関する学科は4校に設置されている。工業に関する学科においては、ものづくりに関する基礎的・基本的な知識と技術の確実な定着を図るとともに、実践的実習・実験を重視し、環境変化や技術革新に対応できる将来のスペシャリストを育成する必要がある。

また、地域産業と連携した教育や資格取得などに主体的に取り組む教育を推進し、創造性豊かで地域に貢献できる技術者を育成する必要がある。

商業に関する学科

本県の商業に関する学科は5校に設置されている。商業に関する学科においては、流通ビジネス、国際経済、簿記会計、経営情報の各分野の学習を通して、マーケティング能力や情報活用能力などのビジネスに関する理解力と実践力を身につけさせる必要がある。

また、将来のスペシャリストとして、起業家精神を身につけさせるとともに、地域産業と連携した教育や資格取得などに主体的に取り組む教育を推進し、創造性豊かで地域に貢献できる人材を育成する必要がある。

水産に関する学科

本県の水産に関する学科は2校に設置されている。水産に関する学科においては、水産・海洋の各分野における、生産や流通、環境などに関する基礎・基本を重視しながら、将来のスペシャリストとして必要とされる知識と技術を習得させ、水産業及び海洋関連産業の意義や役割を理解させる必要がある。また、それらの産業の発展を支える創造力と実践的な態度を育成する必要がある。

なお、近年、水産高校への進学者は減少傾向にあり、卒業後の関連分野への就職

アンダーライン部及び取消線——は、追加・修正した部分

・進学者も少ない状況にある。水産高校のあり方については、地域の実態や本県の水産業振興との関わりなどから、学校数は現在のままでよいか、たとえ小規模でも単独の専門高校として存続させるか、また、学校規模の適正化を図る観点から他の学科との併設とするかなど、様々な議論がある。今後10年間を見通した対応については、地域内の他の高校との関連も含めて、総合的な検討が必要である。

家庭に関する学科

本県の家庭に関する学科は定時制課程1校に設置されている。また、生活・文化に関する系列が2校の総合学科に設定されている。家庭に関する学科・系列においては、衣食住や保育、家庭看護や介護に関する知識と技術を習得させるとともに、主体的、実践的な態度を育成する必要がある。

なお、家庭に関する学科については、定時制・通信制課程の統合再編成により、専門学科としては存続しないが、統合新設校においても、専門教科・科目として取り入れることが望ましい。

福祉に関する学科

本県では福祉に関する学科は設置されていないが、福祉に関する系列が3校の総合学科に設定されている。福祉に関する系列においては、他者を思いやる気持ちやいたわる気持ちなど、豊かな人間性を育む必要がある。また、介護サービスに関する専門的な知識と技術を有する人材の育成が必要である。

なお、現在、国において介護職員養成課程における様々な見直しが検討されており、福祉系列で取得を推進している訪問介護員の資格については将来的に介護福祉士に一元化されることも考えられるため、国における検討状況を見ながら、今後の教育内容を検討していく必要がある。

中高一貫教育のあり方

中高一貫教育には「中等教育学校」、「併設型」、「連携型」という3つの実施形態があり、本県では「連携型」の中高一貫教育が2地域で実施されている。

本県で実施している連携型の中高一貫教育においては、中学校と高校が連携したT T授業などにより、きめ細かな学習指導や進路指導ができるとともに、中学生と高校生の交流により、教育活動に活気が生まれ、相互の理解も深まるという積極的な評価がある。

しかし、その一方で連携型では6年間を見通した計画的・継続的な指導に限界があると

アンダーライン部及び取消線——は、追加・修正した部分

か、連携高校の入学選抜において学力検査がないことが生徒の学習意欲の低下につながっているのではないか、などの指摘もある。

中高一貫教育の今後のあり方については、連携型の成果と課題を検証しつつ、今後も教育内容の充実と課題の改善に努めるとともに、都市部における取り組みについても引き続き検討していく必要がある。

高校と中学校との連携による教育の推進

生徒の個性や能力に応じたよりきめ細かな教育を行うため、高校と中学校との交流を通して共通理解を深めたり、学習指導の工夫を行うなど、中高の連携を一層進める必要がある。

特別支援教育への対応

高校における特別支援教育

高校においては既に、知的障害を伴わない肢体不自由などの生徒に対し、必要な支援が行われてきた。しかし、LD(学習障害)、ADHD(注意欠陥/多動性障害)、高機能自閉症などの発達障害に対する理解は十分とは言えず、該当生徒への特別支援教育をより一層充実させる必要がある。

現在、高校においても、校内委員会や特別支援教育コーディネーターを置くなどの校内支援体制の確立に向けた取り組みが行われている。今後は個別の指導・支援の場を設けるなどの教育環境の整備や教育内容・方法をさらに工夫する必要がある。高校と特別支援学校との連携による特別支援教育

障害のある生徒の教育的ニーズは様々であり、高校だけの、あるいは、特別支援学校だけの単独の取り組みでは十分な学習成果をあげることが困難な場合もある。今後は、お互いに十分な情報交換を行うとともに、お互いの教育の専門性や施設・設備などの機能を生かした教育を行っていく必要がある。

生涯学習社会における高校のあり方と地域社会との連携による教育の推進

生涯学習社会の進展に伴って、学校教育の場においては、生徒一人ひとりが生涯を通して学んでいくための基礎を培うことが重要となっている。また、学校と家庭、地域社会が相互の連携を一層深めていくとともに、地域社会に開かれた学校づくりをさらに推進していく必要がある。

本県では、これまでも、学校施設の開放や開放講座の開設などにより、一定の学校開

アンダーライン部及び取消線は、追加・修正した部分

放が行われてきた。今後も、高校がもつ人的・物的な機能を地域社会へ一層開放していく必要がある。

また、生徒の体験的な学習などにおいて、地域社会の教育力や人材を学校教育に活用し、地域や社会に貢献することの意義や尊さを教え、その気概をもたせることが必要である。

4. 再編成に関する基本的な考え方

今後の生徒減少期にあっても、各高校が、高校教育の水準を確保し、魅力と活力ある学校づくりをしていくためには、次に示す を基本としながら、 から までの観点も含めて、各地域における高校のあり方や再編成について検討していく必要がある。

高校には、次に示す から のような観点から、基本的に一定の生徒数や学校規模が必要である。

多様な学習ニーズに対応する教育課程とそれを可能にする教員配置

生徒の多様な学習ニーズに対応するためには、進路希望や興味・関心に応じた多様な科目の開設と、それを可能にする教員数が必要である。しかし、教員数は基本的に学校規模(収容定員)に基づいて決まるため、多様な科目を開設するには、一定以上の学校規模が必要となる。

たとえば、普通高校の場合、1学年4学級以上であれば、理科や地理歴史科などにおいて、すべての科目の教員を配置することがほぼ可能となり、より適切な教科指導が行える。

部活動や学校行事の充実

学習以外でも、部活動や学校行事、生徒会活動等を通して、生徒が充実した高校生活を送るための教育環境が必要である。特に部活動は、それを励みにしている生徒も多く、教育の場としても重要である。一定以上の規模を有する高校では部活動の選択肢が多く、また、専門的な指導者を確保しやすい。

集団の中で社会性とたくましさを培うことのできる教育環境

大人の一步手前にいる高校生には、集団の中で多くの個性や価値観に触れ、切磋琢磨しながら社会性や協調性を育むとともに、大きな集団の中でも自分らしさを発揮できるたくましさや環境が望ましい。このような環境は、一定以上の規模を有する高校において、より整えやすい。

アンダーライン部及び取消線は、追加・修正した部分

高校の配置を検討するにあたっては、東西に長く、多くの中山間地域を有する本県の地理的特性や通学事情などを勘案し、高校教育の機会均等を図るとともに、高校が教育の場としてはもとより、地域コミュニティや文化的拠点としての役割も果たしていることから、地域における高校の存在意義などについても考慮する必要がある。

各学科については、生徒の進路希望などを踏まえながら、適正配置に努めるとともに、志願者が減少している専門学科などについては、本県の産業構造や産業振興との関わりなども十分把握したうえで、新しい学科や高校のあり方を検討していく必要がある。

再編成後の高校については、生徒が将来に対する夢と希望をもち、高校生活そのものが充実して、生き生きとした日々を送ることができるよう、教育内容や施設設備などの充実に努め、新たな時代に対応した学校づくりを進めていく必要がある。

なお、生徒数の減少により、小規模化が進む中山間地域の高校については、教育環境と教育水準を確保する観点から、国に対して、県立高校の教職員定数の見直しなどについて働きかけていくことも必要である。また、生徒数の推移によっては、存続の可否について検討しなければならない状況にあるため、今後の高校のあり方や生徒数の確保を含む学校活性化の方策などについて、各地域においても具体的な議論が望まれる。

5. 再編成に関する基本的事項

対象とする期間

本県の生徒数は、今後も減少傾向が続くことが予測されているが、生徒数の予測がある程度可能な平成21年度から平成30年度までを対象とした中・長期的な視点で再編成を検討することが適切である。

1学級当たりの定員

本県の県立高校の1学級当たりの定員は、「公立高等学校の設置、適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律(以下、「標準法」という。)」に基づき、すべて40人となっている。今後も標準法を基本として、適切に対応していくべきである。

アンダーライン部及び取消線——は、追加・修正した部分

適正規模

県立高校の適正規模は、高校教育の水準を確保し、生徒にとって魅力と活力ある学校づくりをしていく観点から、現行の「1学年4学級以上8学級以内」という基準を維持することが適当である。

なお、「適正規模」という表現は、3学級以内の高校が適正でないという印象を与えかねないので、例えば「望ましい規模」あるいは「標準規模」などに見直すことが望ましい。

統廃合基準

県立高校の統廃合基準は、適正規模と同様の観点から、基本的に現行の統廃合基準を維持することとし、次のとおりとするのが適当である。

普通科を設置する1学年2学級の高校については、入学者数が入学定員の5分の3を2年連続下回ることが見込まれる場合には、引き続き存続させるか、近隣の高校と統合するかを適当な時期に検討する。その際には、高校教育の機会均等や中山間地域の振興の観点から、1学年1学級本校としての存続のあり方をあわせて検討していく。

専門高校又は総合学科を設置する高校が1学年2学級となることを見込まれる場合には、支障のない形で、原則として近隣の高校との統合を検討する。

全日制課程分校又は1学年1学級本校において、在籍生徒数が収容定員の5分の3に満たず、しかも、将来にわたって生徒数が増加する見通しが立たないと見込まれる場合には、生徒募集を停止するか、近隣の高校へ統合するかを適当な時期に検討する。ただし、今後、高校の再編成を進めていくに際し、必要な場合には、これらの学校がこの基準に該当しない場合であっても、統合を検討していく。

なお、これらの統廃合基準の適用にあたり、中山間地域の分校や1学年2学級以内の普通高校については、収容定員又は入学定員の設定を1学級当たり35人とみなすこととする。

アンダーライン部及び取消線——は、追加・修正した部分

平成 18 年 3 月 20 日

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会
会長 井上定彦様

島根県教育委員会
教育長 広沢卓嗣

次の事項について理由を付して諮問します。

平成 21 年度以降の魅力と活力ある県立高校のあり方について

(理由)

本県では、現在「県立学校再編成基本計画」に基づき、平成 11 年度から 20 年度までを計画期間として、魅力と活力ある県立高校づくりに取り組んでいるところです。

この計画期間内において、県内の中学校卒業生数は、約 2,600 人減少すると見込んでいますが、平成 21 年度から 30 年度までの 10 年間においても、減少のペースは緩くなるものの下げ止まることなく、約 1,500 人減少すると予測しています。これに伴い、中山間地域の高校を中心に、学校の小規模化が一層進行していくものと考えています。

また、「しまね教育ビジョン 21」に述べるとおり、今後、技術革新や国際化・情報化の一層の進展、本格的な少子高齢化社会の到来などを背景として、我が国の産業・就業構造も大きく変化し、生徒の興味・関心や進路希望も、これまで以上に多様化していくものと思われます。

さらに、三位一体の改革や道州制の議論など、国と地方のあり方が大きな課題となっておりますが、そうした動きが、将来の高校教育に大きな影響を与えていくことも考えられます。

このように高校教育を取り巻く環境が大きく変化していく中、「魅力と活力に溢れた高校教育の実現」「社会や生徒のニーズに対応した高校づくり」「島根の将来を担う人材の育成」などの観点から、新しい時代、新しい流れに対応した島根の高校教育を構築していくことが強く求められております。

そのため、平成 21 年度から 10 年間の展望した、中長期の県立高校のあり方、進むべき方向をお示しいただきたく、ご審議をお願いするものであります。

(検討事項)

(1) 生徒数の一層の減少に対応した高校のあり方

高校の適正な配置について
高校の適正規模について
高校の統廃合基準について
その他関連する事項

(2) 生徒の興味・関心、能力・適性、進路の多様化などに対応した高校のあり方

学校の選択幅の拡大(学校の特色化)について
新しいタイプの高校について
その他関連する事項

(3) 社会の変化に対応した高校・学科のあり方について

社会ニーズの変化、技術の進展等に対応した高校・学科について
その他関連する事項

(4) 生涯学習社会に対応した高校のあり方

地域の生涯学習センター的機能の強化について
地域と高校が連携した教育について
その他関連する事項

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 島根県教育委員会教育長(以下「教育長」)の諮問に応じ、平成21年度以降の県立高校のあり方について検討審議するため、魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会(以下「委員会」という)を置く。

(組織)

第2条 委員会は、委員21名以内で組織する。
2 委員は、教育長が委嘱する。

(任期)

第3条 委員の任期は、平成20年3月までとする。ただし、特別の事情があるときは、各委員の承諾を得て、任期を延長することができる。

(会長等)

第4条 委員会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。
2 会長は、委員会を代表し、会務を総括する。
3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、会長が招集する。
2 委員会の議長は、会長をもって充てる。
3 委員会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
4 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

(専門部会)

第6条 諮問事項について調査研究するために、委員会に専門部会を設置する。
2 専門部会の委員は、教育長が委嘱する。
3 前3条の規定は、専門部会について準用する。

(関係者の出席)

第7条 委員会は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(事務局)

第8条 委員会に関する事務は、島根県教育庁高校教育課において行う。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則

この要綱は、平成18年3月20日から施行する。

附則

この要綱は、平成19年7月18日から施行する。

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会 委員

(敬称略)

氏名	職業等	備考
井上 定彦	島根県立大学 教授	会長
多々納道子	島根大学 教授	副会長
池田眞理香	隠岐の島町地域福祉センター 所長	
大多和聡宏	島根県私立中学高等学校連盟 会長	
鞆嶋 弘明	元県立高等学校長、元島根県教育委員会教育次長	～H19.6.9は島根県町村教育長会会長
錦織 靖雄	島根県公立高等学校長協会 会長	～ H18.3.31
佐藤 健治	島根県公立高等学校長協会 会長	H18.4.27～
白川 和子	協同組合グループ石見ブランド 専務理事	
吉迫 哲哉	島根県中学校長会 会長	～ H19.3.31
曾田 秀雄	島根県中学校長会 会長	H19.4.1～
寺本 恵子	地域興しマイスター	
竹村 一秀	島根県PTA連合会 会長	～ H18.6.22
寺本 淳一	島根県PTA連合会 会長	H18.6.23～
中川 恵子	文化学院幼稚園 園長	
平川 眞代	公募委員	
福井 竜夫	公募委員	
福島 律子	島根県都市教育長会 会長	
福岡 祐子	(財)しまね女性センター 専門員	
藤原 洋	(株)シーズ総合政策研究所 代表取締役所長	
宮内 幸雄	出雲造機(株)会長(元島根県教育委員会委員長)	
宮脇 和秀	(株)ミック 代表取締役社長	
廣原 俊平	島根県高等学校PTA連合会 会長	～ H18.6.22
本山 禎彦	島根県高等学校PTA連合会 会長	H18.6.23～
横田 政子	島根県立石見高等看護学院 副学院長	
若槻 慎二	島根県町村教育長会 会長	H19.7.18～

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会 専門部会委員名簿

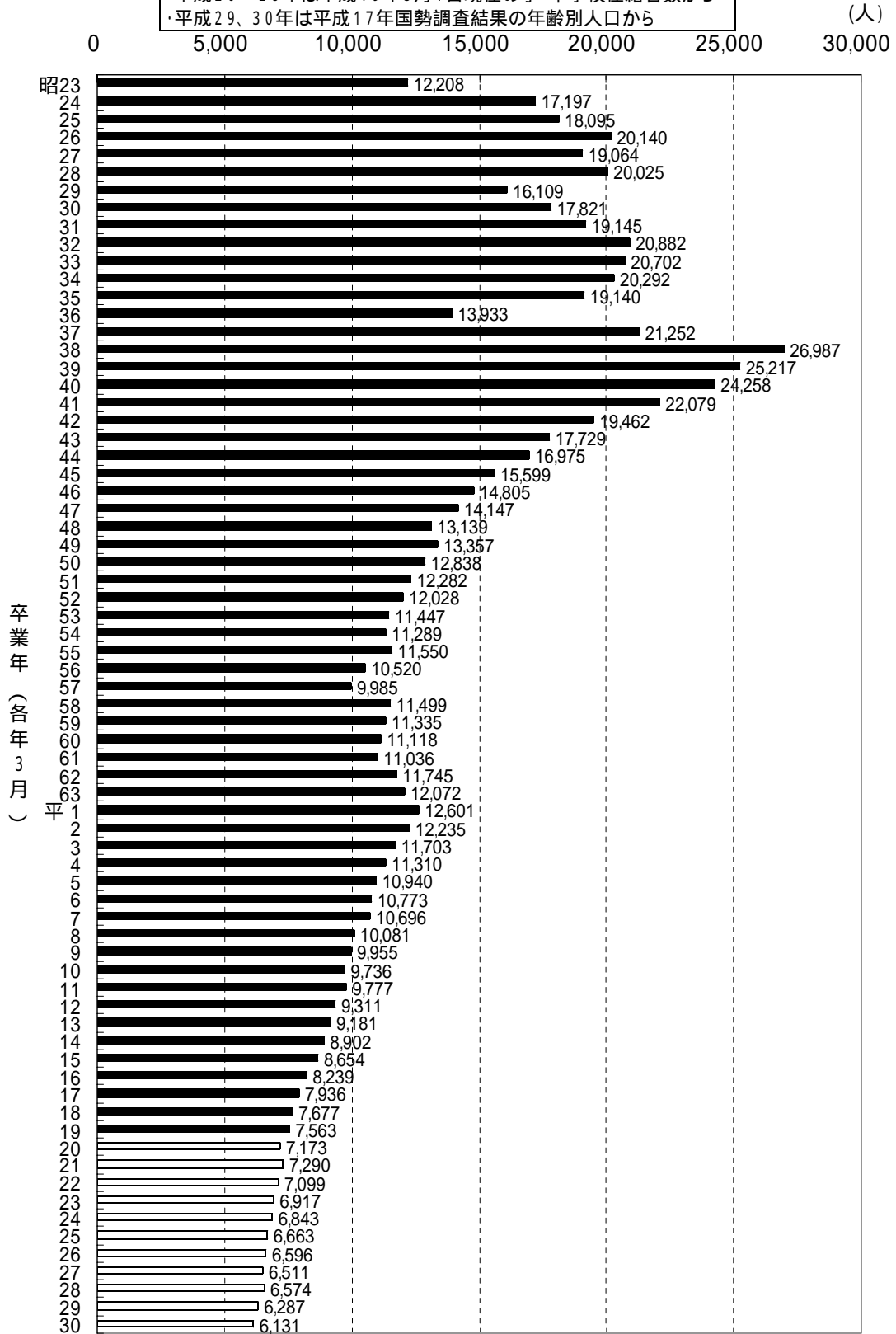
部 会	氏 名	職 名	備 考
普通科等部会	広江千年	松江南高等学校長	東部・都市部
普通科等部会	景山 寛	三刀屋高等学校長	総合学科 ~H19.3.31
普通科等部会	花田英治	三刀屋高等学校長	総合学科 H19.5.29~
普通科等部会	服部京子	飯南高等学校長	東部・中山間地・中高一貫
普通科等部会	岩浅宏志	出雲高等学校長	出雲・都市部 ~H19.3.31
普通科等部会	大賀敏郎	大田高等学校長	県央・都市部 H19.5.29~
普通科等部会	上川義寛	川本高等学校長 島根中央高等学校長	県央・中山間地 ~H19.3.31 H19.4.1~
普通科等部会	大矢幸雄	浜田高等学校長	石見・都市部 ~H19.3.31
普通科等部会	松田夏夫	津和野高等学校長 浜田高等学校長	西部・中山間地 ~H19.3.31 西部・都市部 H19.4.1~
普通科等部会	村上達雄	津和野高等学校長	西部・中山間地 H19.5.29~
普通科等部会	木村保孝	松江教育センター所長	~H19.3.31
普通科等部会	三上昭憲	高校教育課 高等学校指導 G L	
専門学科部会	堂上育生	松江工業高等学校長	工業教育研究会会長
専門学科部会	加本良治	出雲商業高等学校長	商業
専門学科部会	佐野 明	出雲農林高等学校長	農業教育会会長
専門学科部会	岩本節雄	益田翔陽高等学校長	総合学科
専門学科部会	高梨政司	隠岐水産高等学校長	水産教育研究会会長
専門学科部会	三島一友	高校教育課指導主事	農業
専門学科部会	立石祥美	浜田教育センター指導主事	家庭
共通部会	広江千年	松江南高等学校長	東部・大規模
共通部会	服部京子	飯南高等学校長	東部・中山間地・中高一貫
共通部会	佐野 明	出雲農林高等学校長	農業教育会会長
共通部会	上川義寛	川本高等学校長 島根中央高等学校長	県央・中山間地 ~H19.3.31 H19.4.1~
共通部会	大矢幸雄	浜田高等学校長	石見・大規模 ~H19.3.31
共通部会	松田夏夫	浜田高等学校長	西部・大規模 H19.5.29~
共通部会	岩本節雄	益田翔陽高等学校長	総合学科
共通部会	高梨政司	隠岐水産高等学校長	水産教育研究会会長
共通部会	三上昭憲	高校教育課 高等学校指導 G L	

「魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会」検討経過

回数	年	月	日	内容	備考		
第1回	18	3	20	(月)	・会長、副会長選任、諮問 ・現状説明(生徒数、中学校卒業者数の推移 等) ・意見交換		
学校視察		6~7			江津工業、浜田水産、出雲商業、出雲農林 隠岐水産、松江農林、三刀屋、松江東、飯南、隠岐		
第2回		9	8	(金)	・現状説明(学力向上に関する取組状況、通学区域 等) ・意見交換		
第3回		11	17	(金)	・論点整理(生徒数の減少に対応した県立高校のあり方 等) ・今後の進め方(検討スケジュールの確認)について		
第4回	19	1	26	(金)	・前回検討委員会の整理について ・県立高校の配置について	・専門部会(1/12)	
第5回		4	16	(月)	・県立高校の適正規模及び統廃合基準について	・共通部会(2/27)	
第6回		5	28	(月)	・専門高校のあり方について	・専門学科部会(5/18)	
第7回		7	23	(月)	・普通高校のあり方について	・普通科等部会(7/10)	
第8回		9	7	(金)	・県立高校の配置について ・新しいタイプの高校について(総合学科、中高一貫教育)	・共通部会(8/27)	
第9回		10	18	(木)	・関係者からの意見聴取		
第10回		12	13	(木)	・県立学校再編成基本計画等の実施状況 ・中間まとめ(案)の審議	・専門部会(11/22)	
パブリックコメント		12	26	(水)			
第11回		20	1	25	(金)		
第11回			2	13	(水)	・パブリックコメントの結果について ・答申(案)の審議	・専門部会(2/4)
答 申		3					

島根県内の中学校卒業生数の推移 〔平成19年5月1日現在〕

・平成18年までは学校基本調査結果から
 ・平成19年は高校教育課調査結果から
 ・平成20～28年は平成19年5月1日現在の小・中学校在籍者数から
 ・平成29、30年は平成17年国勢調査結果の年齢別人口から



地域別中学校卒業生数の推移と公立高校の学科・学級数

【H20公立高校全日制課程の学科別学級数】

学科	3年	2年	1年	計	1年の構成比	
普通	89	87	85	261	56.7%	62.7%
理数	6	6	6	18	4.0%	
英語	1	1	1	3	0.7%	
体育	1	1	1	3	0.7%	
国際文化観光	1	1	1	3	0.7%	
商業	18	18	17	53	11.3%	30.0%
工業	17	17	15	49	10.0%	
農業	9	9	9	27	6.0%	
水産	4	4	4	12	2.7%	
総合	12	11	11	34	7.3%	
計	158	155	150	463	100.0%	100.0%
学校数	39	38	38	-	-	-

1 分校(3校)を含む。

2 松江市立女子高校の1学級当たりの定員は1年生が30人、2・3年生が40人である。なお、学級数は各学年とも4学級である。

【県内の中学校卒業生数の推移】

中学校卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30
現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳	-H19
県総計	7,936	7,677	7,563	7,173	7,290	7,099	6,917	6,843	6,663	6,596	6,511	6,574	6,287	6,131	1,432
対前年差		259	114	390	117	191	182	74	180	67	85	63	287	156	

〔説明〕

平成18年までは学校基本調査結果から。平成19年は高校教育課調査による。

平成20年～28年は、平成19年5月1日現在の小・中学校在籍者数

平成29年～30年は、平成17年国勢調査 第1次基本集計結果の年齢別人口から

【公立高校全日制課程の1校あたり平均募集学級数】

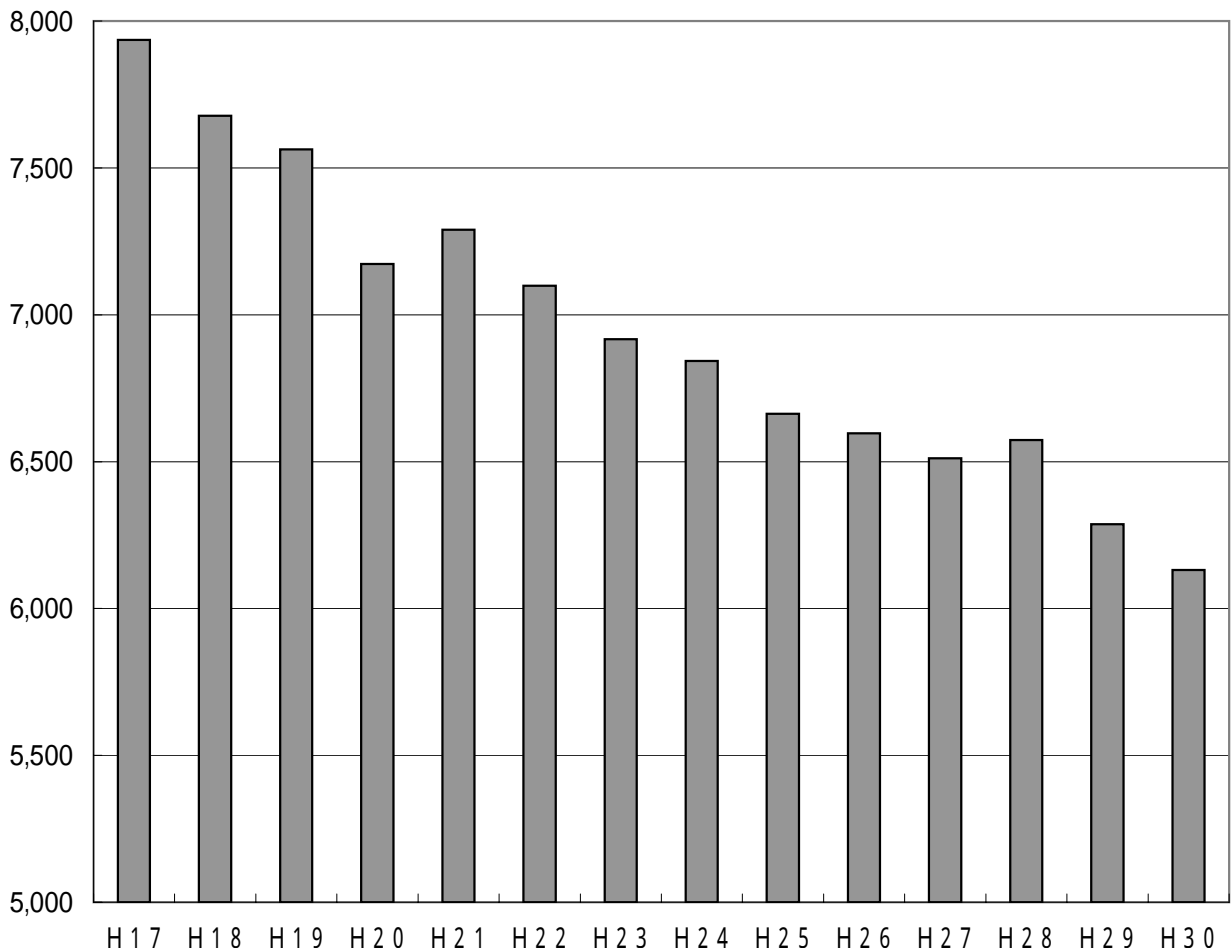
区分	H10	H18	H19	H20	H30
学校数	37	36	35	35	(35)
学級数	193	155	152	147	(118)
平均	5.22	4.31	4.34	4.20	(3.37)
全国平均	-	5.48	5.53	-	-

1 分校(3校)を除く

2 全国平均は、他県の調査結果から

3 H30の数値は、H21以降に統合再編成を行わないと仮定した場合の数値

高校の適正規模
1学年4～8学級
(H11県立学校再編成基本計画)



安来市

卒業年		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H19	
H19.5.1現在の学年等		高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
中学校 卒業 者数	安来市	432	414	443	421	387	409	416	433	383	397	354	398	365	355	88	
	計(A)	432	414	443	421	387	409	416	433	383	397	354	398	365	355	88	
	対前年差		18	29	22	34	22	7	17	50	14	43	44	33	10		
他地域との 出入	松江市、八束郡	60	79	88	74	63	71	73	77	65	69	58	69	63	61	27	
	雲南市				1	1	1	1	1	1	1		1				
	飯石郡																
	仁多郡	1		2	1		1		1	1	1	1	1	1	1	3	
	出雲市、簸川郡	5	4	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2		
	大田市			1												1	
	邑智郡	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		
	江津市																
	浜田市	2	1		1	1	1										
	益田市			1												1	
	鹿足	1															
	隠岐島後	1	1	1												1	
	隠岐島前			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
	県外	39	53	38	41	38	40	40	42	37	39	34	39	35	34	4	
計(B)	102	133	125	117	102	113	115	122	105	111	93	111	100	96	29		
対前年差	-	31	8	8	15	11	2	7	17	6	18	18	11	4			
高校以外へ進む者(C)	32	30	50	36	35	36	36	39	34	35	30	35	32	30	20		
生徒数計(A)+(B)-(C)	298	251	268	268	250	260	265	272	244	251	231	252	233	229	39		
入学 定員	安来 普	200	200	200	200	〔付記〕 松江市の公立高校、鳥取県の私立高校への進学が目立つ。 公・私の圏域 = その他圏域 (比率 = 100 : 0)										予測値	80
	情報科学 商	120	120	120	120												
	計	320	320	320	320												
平均募集学級数(分校を除く)	4.0	4.0	4.0	4.0										3.0	1.0		
私立 募集 定員																	
	計																

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

松江市、八束郡

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19	
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
	松江市	2,117	2,076	2,070	1,932	2,034	1,950	1,921	1,893	1,870	1,798	1,867	1,794	1,691	1,681	389	
	東出雲町(八束郡)	137	139	138	137	151	140	145	165	159	186	177	185	190	195	57	
	計(A)	2,254	2,215	2,208	2,069	2,185	2,090	2,066	2,058	2,029	1,984	2,044	1,979	1,881	1,876	332	
	対前年差		39	7	139	116	95	24	8	29	45	60	65	98	5		
他地域との 出入	安来市	60	79	88	74	63	71	73	77	65	69	58	69	63	61	27	
	雲南市	67	35	56	50	49	51	45	45	45	49	43	41	39	35	21	
	飯石郡	5	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
	仁多郡	12	9	9	9	9	9	10	9	9	8	7	8	7	6	3	
	出雲市、簸川郡	31	27	23	18	19	21	19	16	16	18	16	18	18	16	7	
	大田市	10	5	4	5	5	5	5	4	5	5	3	4	5	5	1	
	邑智郡	2	3	4											1	1	3
	江津市	5	2	1	1	1	1	1	1			1		1			1
	浜田市	8	3	5	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	益田市	3	2	2	1	1	1		1				1				2
	鹿足郡	2	1	1	2												1
	隠岐島後	6	14	4	7	7	5	5	4	4	4	4	4	5	4	5	1
	隠岐島前	8	17	9	10	9	8	9	11	8	9	8	9	8	8	6	3
	県外	37	35	26	27	29	27	27	27	27	26	26	27	26	24	24	2
	計(B)	182	159	182	158	142	153	147	148	133	144	120	136	128	118	64	
	対前年差	-	23	23	24	16	11	6	1	15	11	24	16	8	10		
	高校以外へ進む者(C)	206	158	186	169	179	171	169	168	166	161	168	161	153	153	33	
	生徒数計(A)+(B)-(C)	2,230	2,216	2,204	2,058	2,148	2,072	2,044	2,038	1,996	1,967	1,996	1,954	1,856	1,841	363	
入学定員	松江北 普、理	320	320	320	320	〔付記〕 安来市、雲南市からの進学が目立つ。 公・私 の 圏 域 = 松 江 圏 域 (比 率 = 75.71 : 24.29) 松江市立女子高校の入学定員 H19年度まで：1学級40人×4学級 = 160人 H20年度から：1学級30人×4学級 = 120人										予測値 1,400	320
	松江南 普、理	320	320	320	320												
	松江東 普	280	240	240	240												
	松江工業 工	280	280	280	240												
	松江商業 商	240	240	240	240												
	松江農林 農、総	160	160	160	160												
	松江市立女子 普、国	160	160	160	120												
	計	1,760	1,720	1,720	1,640											1,400	320
	平均募集学級数(分校を除く)	6.3	6.1	6.1	5.9											5.0	1.1
私立募集定員	開星 普、調理	219	218	218	212	私立募集定員：県内生のみの定員											
	立正大松南 普	72	71	71	69												
	松徳学院 普	97	96	96	92												
	松江西 普、商	182	179	179	170												
		計	570	564	564											543	

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

雲南市

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19	
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
	雲南市	467	460	437	420	423	428	390	386	390	402	369	357	344	323	114	
	計(A)	467	460	437	420	423	428	390	386	390	402	369	357	344	323	114	
	対前年差		7	23	17	3	5	38	4	4	12	33	12	13	21		
他地域との 出入	安来市				1	1	1	1	1	1	1		1				
	松江市、八束郡	67	35	56	50	49	51	45	45	45	49	43	41	39	35	21	
	飯石郡	4	1	3	1	1	1						1		1	2	
	仁多郡	18	14	14	11	13	11	13	11	12	9	9	10	9	8	6	
	出雲市、簸川郡	35	31	31	28	28	28	25	25	25	27	24	24	22	21	10	
	大田市		1														
	邑智郡		1	1													1
	江津市	1	1														
	浜田市	1															
	益田市		1														
	鹿足郡			1													1
	隠岐島後																
	隠岐島前																
県外		4	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1		
	計(B)	80	57	75	67	64	68	58	60	59	68	60	54	53	50	25	
	対前年差	-	23	18	8	3	4	10	2	1	9	8	6	1	3		
	高校以外へ進む者(C)	23	29	28	25	25	25	23	22	23	23	22	20	19	19	9	
	生徒数計(A)+(B)-(C)	364	374	334	328	334	335	309	304	308	311	287	283	272	254	80	
入学定員	大東 普	160	160	160	160	〔付記〕 松江市の公・私立高校、出雲市の公立高校への進学が目立つ。 公・私圏域 = その他圏域 (比率 = 100 : 0)										予測値 240	160
	三刀屋 総	200	200	200	200												
	〃掛合分校 普	40	40	40	40												
	計	400	400	400	400												
	平均募集学級数(分校を除く)	4.5	4.5	4.5	4.5										3.0	1.5	
私立募集定員																	
	計																

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

飯石郡

中学校 卒業年	卒業年			H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19	
	H19.5.1現在の学年等			高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
中学校 卒業者数	飯南町			79	57	59	58	65	61	43	42	37	40	38	54	47	34	25	
	計(A)			79	57	59	58	65	61	43	42	37	40	38	54	47	34	25	
	対前年差				22	2	1	7	4	18	1	5	3	2	16	7	13		
他地域との 出入	安来市																		
	松江市、八束郡			5	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	雲南市			4	1	3	1	1	1						1		1	2	
	仁多郡			1															
	出雲市、簸川郡			6	5	3	4	4	4	3	3	1	1	1	4	4	1	2	
	大田市			1	1														
	邑智郡			3		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		
	江津市			1	1														
	浜田市																		
	益田市																		
	鹿足郡																		
	隠岐島後																		
	隠岐島前																		
	県外				1	1													1
計(B)			13	6		6	6	6	4	4	2	2	2	6	6	1	1		
対前年差			-	7	6	6			2		2			4		5			
高校以外へ進む者(C)			7	1	2	2	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
生徒数計(A)+(B)-(C)			59	50	57	50	56	52	37	36	33	36	34	46	39	31	26		
入学定員	飯南	普	80	80	80	80	〔付記〕 他地域との出入は少ない。 公・私の圏域 = その他圏域 (比率 = 100 : 0)										予測値		
																	40	40	
	計		80	80	80	80													
平均募集学級数(分校を除く)			2.0	2.0	2.0	2.0										1.0	1.0		
私立募集定員																			
	計																		

中学校卒業者数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

仁多郡

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19	
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
	奥出雲町	169	189	180	141	166	143	171	141	151	123	115	136	120	105	75	
	計(A)	169	189	180	141	166	143	171	141	151	123	115	136	120	105	75	
	対前年差		20	9	39	25	23	28	30	10	28	8	21	16	15		
他地域との 出入	安来市	1		2	1		1		1	1	1	1	1	1	1	3	
	松江市、八束郡	12	9	9	9	9	9	10	9	9	8	7	8	7	6	3	
	雲南市	18	14	14	11	13	11	13	11	12	9	9	10	9	8	6	
	飯石郡	1															
	出雲市、簸川郡	6	6	2	3	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	1	
	大田市																
	邑智郡	1															
	江津市																
	浜田市																
	益田市																
	鹿足郡																
	隠岐島後																
	隠岐島前																
県外	6	5	2	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	4	
	計(B)	29	24	25	16	20	16	21	16	17	13	12	14	12	10	15	
	対前年差	-	5	1	9	4	4	5	5	1	4	1	2	2	2		
	高校以外へ進む者(C)	7	15	11	10	11	10	11	10	10	9	9	10	9	8	3	
	生徒数計(A)+(B)-(C)	133	150	144	115	135	117	139	115	124	101	94	112	99	87	57	
入学定員	横田																
	普	160	160	160	160												
	計	160	160	160	160										80	80	
	平均募集学級数(分校を除く)	4.0	4.0	4.0	4.0										2.0	2.0	
私立募集定員																	
	計																

〔付記〕
松江市、雲南市の公立高校への進学が目立つ。
公・私の圏域 = その他圏域 (比率 = 100 : 0)

予測値

80

80

中学校卒業者数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

出雲市、簸川郡

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳	
	出雲市	1,586	1,575	1,555	1,471	1,542	1,505	1,507	1,417	1,403	1,374	1,392	1,431	1,357	1,341	214
	斐川町(簸川郡)	330	288	307	294	280	319	287	293	285	318	289	298	295	265	42
	計(A)	1,916	1,863	1,862	1,765	1,822	1,824	1,794	1,710	1,688	1,692	1,681	1,729	1,652	1,606	256
	対前年差		53	1	97	57	2	30	84	22	4	11	48	77	46	
他地域との 出入	安来市	5	4	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	2	2	
	松江市、八束郡	31	27	23	18	19	21	19	16	16	18	16	18	18	16	7
	雲南市	35	31	31	28	28	28	25	25	25	27	24	24	22	21	10
	飯石郡	6	5	3	4	4	4	3	3	1	1	1	4	4	1	2
	仁多郡	6	6	2	3	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	1
	大田市	33	33	47	37	36	30	35	26	31	31	22	27	31	30	17
	邑智郡	5	7	5	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	2	3
	江津市	2	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	浜田市	6	5	4	6	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4	
	益田市	1	3	2	2	2	2		2			2				2
	鹿足郡	2	2		1											
	隠岐島後	1		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	隠岐島前	1		1												1
	県外	11	17	7	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	9
	計(B)	59	53	68	58	55	46	47	43	43	44	35	40	40	38	30
	対前年差	-	6	15	10	3	9	1	4		1	9	5		2	
	高校以外へ進む者(C)	114	121	120	108	111	111	109	105	102	102	102	106	100	97	23
	生徒数計(A)+(B)-(C)	1,861	1,795	1,810	1,715	1,766	1,759	1,732	1,648	1,629	1,634	1,614	1,663	1,592	1,547	263
入学定員	平田 普	160	160	160	160											
	出雲 普、理	360	360	360	320											
	出雲工業 工	200	200	200	160											
	出雲商業 商	200	160	160	160											
	出雲農林 農	160	160	160	160											
	大社 普、体	320	320	320	320											
	// 佐田分校 普	40	40	40	40											
	計	1,440	1,400	1,400	1,320										1,200	200
	平均募集学級数(分校を除く)	5.8	5.7	5.7	5.3										5.0	0.7
私立募集定員	出雲北陵 普	183	182	182	177											
	出雲西 普、商	206	202	202	189											
	計	389	384	384	366											

〔付記〕
雲南市、大田市からの進学が目立つ。
公・私の圏域 = 出雲圏域 (比率 = 78.95 : 21.05)

予測値
1,200 200

私立募集定員: 県内生のみの定員

中学校卒業生数... H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
他地域との出入... 他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
高校以外へ進む者... 特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員... H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
平均募集学級数... 本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

大田市

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19										
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳											
	大田市	460	426	398	393	385	334	366	302	328	337	271	307	334	317	81										
	計(A)	460	426	398	393	385	334	366	302	328	337	271	307	334	317	81										
	対前年差		34	28	5	8	51	32	64	26	9	66	36	27	17											
他地域との 出入	安来市			1												1										
	松江市、八束郡	10	5	4	5	5	5	5	4	5	5	3	4	5	5	1										
	雲南市		1																							
	飯石郡	1	1																							
	仁多郡																									
	出雲市、簸川郡	33	33	47	37	36	30	35	26	31	31	22	27	31	30	17										
	邑智郡	28	5	16	20	18	15	18	12	15	16	11	14	17	14	2										
	江津市	17	31	15	17	15	14	16	12	13	14	9	12	15	13	2										
	浜田市	6	3	4	4	4	3	3	3	3	3	2	3	3	3	1										
	益田市	1	3	4	2	2	2	2	1	2	2	1	1	2	2	2										
	鹿足郡																									
	隠岐島後																									
	隠岐島前																									
県外		1	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3										
	計(B)	94	81	95	87	82	70	80	59	70	72	49	62	74	68	27										
	対前年差	-	13	14	8	5	12	10	21	11	2	23	13	12	6											
	高校以外へ進む者(C)	25	21	9	16	16	14	16	13	14	15	11	14	14	14	5										
	生徒数計(A)+(B)-(C)	341	324	294	290	287	250	270	230	244	250	211	231	246	235	59										
入学定員	大田	普、理	200	200	200	200	〔付記〕 出雲市、江津市の公・私立高校、邑智郡の公立高校への 進学が目立つ。 公・私圏域 = その他圏域(比率100:0)									予測値	80									
	邇摩	総	160	160	120	120																				240
	計		360	360	320	320										240	80									
	平均募集学級数(分校を除く)		4.5	4.5	4.0	4.0										3.0	1.0									
私立募集定員																										
	計																									

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

邑智郡

卒業年		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H20	
H19.5.1現在の学年等		高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
中学校 卒業 者数	川本町	25	38	29	23	32	27	39	24	30	32	21	24	30	31	8	
	美郷町	61	54	44	55	41	52	34	53	37	42	38	28	23	47	8	
	邑南町	141	116	131	87	104	99	96	99	81	78	93	100	85	71	16	
	計(A)	227	208	204	165	177	178	169	176	148	152	152	152	138	149	16	
	対前年差		19	4	39	12	1	9	7	28	4			14	11		
他 地 域 と の 出 入	安来市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		
	松江市、八束郡	2	3	4										1	1	1	
	雲南市		1	1													
	飯石郡	3		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1		
	仁多郡	1															
	出雲市、簸川郡	5	7	5	3	3	3	3	3	2	3	3	3	2	2	1	
	大田市	28	5	16	20	18	15	18	12	15	16	11	14	17	14	6	
	江津市	2	5	26	8	9	7	7	7	7	7	6	8	6	6	2	
	浜田市	7	8	8	7	7	7	6	6	7	6	5	6	6	6	1	
	益田市	5	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2		
	鹿足郡		1	2	1											1	
	隠岐島後																
	隠岐島前																
県外	3	2	8	4	5	5	4	5	4	4	4	4	4	3	4		
計(B)	17	3	31	25	22	17	20	13	19	18	11	17	22	15	10		
対前年差	-	14	28	6	3	5	3	7	6	1	7	6	5	7	1		
高校以外へ進む者(C)	15	11	7	7	8	8	8	8	7	7	7	7	6	7			
生徒数計(A)+(B)-(C)	229	200	228	183	191	187	181	181	160	163	156	162	154	157	26		
入 学 定 員	川本 普	80	80	-	-	〔付記〕 大田市、江津市、浜田市との出入が目立つ。 公・私の圏域 = その他圏域 (比率 = 100 : 0)										予測値	80
	邑智 普	80	80	-	-												
	島根中央 普	-	-	160	120												
	矢上 普、農	120	120	120	120												
	計	280	280	280	240												
平均募集学級数(分校を除く)	2.3	2.3	3.5	3.0										2.0	1.0		
私 立 募 集 定 員																	
	計																

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

江津市

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳	
	江津市	275	268	287	241	268	231	230	233	217	224	214	235	207	205	82
	計(A)	275	268	287	241	268	231	230	233	217	224	214	235	207	205	82
	対前年差		7	19	46	27	37	1	3	16	7	10	21	28	2	
他地域との 出入	安来市															
	松江市、八束郡	5	2	1	1	1	1	1	1		1		1			1
	雲南市	1	1													
	飯石郡	1	1													
	仁多郡															
	出雲市、簸川郡	2	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
	大田市	17	31	15	17	15	14	16	12	13	14	9	12	15	13	2
	邑智郡	2	5	26	8	9	7	7	7	7	7	6	8	6	6	20
	浜田市	45	13	27	27	18	26	21	20	25	18	18	15	19	21	6
	益田市	3	1	1	1	1	1	1	1				1			1
	鹿足郡			1												1
	隠岐島後															
	隠岐島前															
県外	1	2	1	2	2	2	2	2	2	1	1	1	2	1	1	
	計(B)	51	39	13	31	19	28	25	20	29	22	19	14	26	26	13
	対前年差	-	12	26	18	12	9	3	5	9	7	3	5	12		
	高校以外へ進む者(C)	13	16	14	12	13	12	12	12	10	10	10	12	10	10	4
	生徒数計(A)+(B)-(C)	313	291	286	260	274	247	243	241	236	236	223	237	223	221	65
入学定員	江津 普、英	160	120	120	120											
	江津工業 工	120	120	120	120											
	計	280	240	240	240											160
	平均募集学級数(分校を除く)	3.5	3.0	3.0	3.0										2.0	1.0
私立募集定員	江の川 普	104	102	98	95											
	キリスト教愛真 普	5	5	5	5											
	計	109	107	103	100											

〔付記〕
 浜田市、大田市からの進学が目立つ。
 公・私 の 圏 域 = 西 部 圏 域 (比 率 = 76.62 : 23.38)
 西 部 圏 域 = 江 津 市 、 浜 田 市 、 益 田 市

予測値
 160 80

私立募集定員：県内生のみの定員

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

浜田市

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19	
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
	浜田市	676	651	600	593	567	564	517	529	550	495	469	496	477	497	103	
	計(A)	676	651	600	593	567	564	517	529	550	495	469	496	477	497	103	
	対前年差		25	51	7	26	3	47	12	21	55	26	27	19	20		
他地域との 出入	安来市	2	1		1	1	1										
	松江市、八束郡	8	3	5	6	6	6	5	5	5	5	5	5	5	5		
	雲南市	1															
	飯石郡																
	仁多郡																
	出雲市、簸川郡	6	5	4	6	5	5	4	4	4	4	4	4	4	4		
	大田市	6	3	4	4	4	3	3	3	3	3	2	3	3	3	1	
	邑智郡	7	8	8	7	7	7	6	6	7	6	5	6	6	6	2	
	江津市	45	13	27	27	18	26	21	20	25	18	18	15	19	21	6	
	益田市	44	51	45	46	43	43	38	40	41	37	35	37	35	37	8	
	鹿足郡	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	隠岐島後 隠岐島前																
	県外	10	11	2	6	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	2	
計(B)	116	89	87	94	80	89	75	76	83	70	68	67	69	73	14		
対前年差	-	27	2	7	14	9	14	1	7	13	2	1	2	4			
高校以外へ進む者(C)	35	36	28	31	30	30	27	27	27	25	24	26	24	26	2		
生徒数計(A)+(B)-(C)	525	526	485	468	457	445	415	426	440	400	377	403	384	398	87		
入学定員	浜田 普、理	280	280	240	240	〔付記〕 江津市、益田市の公・私立高校への進学が目立つ。 公・私の圏域 = 西部圏域 (比率 = 76.62 : 23.38) 西部圏域 = 江津市、浜田市、益田市										予測値	160
	// 今市分校 普	40	40	40	40												
	浜田商業 商	160	160	160	120												
	浜田水産 水	80	80	80	80												
	計	560	560	520	480											360	
平均募集学級数(分校を除く)	4.3	4.3	4.0	3.7											3.0	1.0	
私立募集定員																	
	計																

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

益田市

中学校卒業年		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H19	
H19.5.1現在の学年等		高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
中学校卒業者数	益田市	550	525	519	519	492	509	430	511	453	447	499	439	455	397	122	
	計(A)	550	525	519	519	492	509	430	511	453	447	499	439	455	397	122	
	対前年差		25	6		27	17	79	81	58	6	52	60	16	58		
他地域との出入	安来市			1												1	
	松江市、八束郡	3	2	2	1	1	1		1			1				2	
	雲南市		1														
	飯石郡																
	仁多郡																
	出雲市、簸川郡	1	3	2	2	2	2		2			2				2	
	大田市	1	3	4	2	2	2	2	1	2	2	1	1	2	2	2	
	邑智郡	5	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	
	江津市	3	1	1	1	1	1	1	1					1		1	
	浜田市	44	51	45	46	43	43	38	40	41	37	35	37	35	37	8	
	鹿足郡	43	38	42	43	34	36	35	32	34	30	33	25	23	19	23	
	隠岐島後																
	隠岐島前																
	県外	4	5	7	6	6	6	7	6	7	7	6	7	7	7		
計(B)	96	96	95	97	85	87	85	79	86	78	74	73	68	67	28		
対前年差	-		1	2	12	2	2	6	7	8	4	1	5	1			
高校以外へ進む者(C)	22	27	22	20	18	19	16	19	16	16	18	16	17	16	6		
生徒数計(A)+(B)-(C)	624	594	592	596	559	577	499	571	523	509	555	496	506	448	144		
入学定員	益田 普、理	200	200	200	200	〔付記〕 浜田市、鹿足郡からの進学が目立つ。 公・私 の 圏 域 = 西 部 圏 域 (比 率 = 76.62 : 23.38) 西部圏域 = 江津市、浜田市、益田市										予測値	
	益田工業 工	80	-	-	-												
	益田産業 農、総	120	-	-	-												
	益田翔陽 工、農、総	-	200	200	200												
	計	400	400	400	400												
平均募集学級数(分校を除く)	3.3	5.0	5.0	5.0													
私立募集定員	明誠 普、福祉、商	136	134	130	127	私立募集定員：県内生のみの定員											
	益田東 普、自動車	148	146	142	138												
	計	284	280	272	265												

中学校卒業者数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

鹿足郡

中学校卒業年数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30-H20
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳	
	津和野町	90	78	85	85	65	73	72	68	69	61	72	55	52	49	36
	吉賀町	86	76	71	75	70	65	59	64	62	61	60	51	51	37	38
	計(A)	176	154	156	160	135	138	131	132	131	122	132	106	103	86	74
	対前年差		22	2	4	25	3	7	1	1	9	10	26	3	17	
他地域との出入	安来市	1														
	松江市、八束郡	2	1	1	2											2
	雲南市			1												
	飯石郡															
	仁多郡															
	出雲市、簸川郡	2	2		1											1
	大田市															
	邑智郡			1	2	1										1
	江津市				1											
	浜田市	1			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	益田市	43	38	42	43	34	36	35	32	34	30	33	25	23	19	24
	隠岐島後															
隠岐島前																
県外	7	1	8	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	11	11	2
	計(B)	42	41	39	39	25	27	26	23	25	21	24	16	13	9	30
	対前年差	-	1	2		14	2	1	3	2	4	3	8	3	4	4
	高校以外へ進む者(C)	2	6	2	4	4	4	4	4	4	3	4	3	2	2	2
	生徒数計(A)+(B)-(C)	132	107	115	117	106	107	101	105	102	98	104	87	88	75	42
入学定員	吉賀 普	40	40	40	40											
	津和野 普	120	120	80	80											
	計	160	160	120	120											80
	平均募集学級数(分校を除く)	2.0	2.0	1.5	1.5										1.0	0.5
私立募集定員																
	計															

〔付記〕
 益田市の公・私立高校への進学が目立つ。
 公・私 の 圏 域 = そ の 他 圏 域 (比 率 = 100 : 0)

予測値

80

40

中学校卒業年数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

隠岐島後

中学校卒業 者数	卒業年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19	
	H19.5.1現在の学年等	高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳		
	隠岐の島町	188	187	160	170	169	149	147	127	116	133	129	139	123	144	16	
	計(A)	188	187	160	170	169	149	147	127	116	133	129	139	123	144	16	
	対前年差		1	27	10	1	20	2	20	11	17	4	10	16	21		
他地域との 出入	安来市	1	1	1												1	
	松江市、八束郡	6	14	4	7	7	5	5	4	4	4	4	5	4	5	1	
	雲南市																
	飯石郡																
	仁多郡																
	出雲市、簸川郡	1		2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	大田市																
	邑智郡																
	江津市																
	浜田市																
	益田市																
	鹿足郡																
	隠岐島前	11	6	3	6	5	4	5	7	4	5	5	5	5	4	4	1
県外	5	8	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	1	
計(B)	12	1	7	6	5	6	7	10	7	8	8	7	7	6	1		
対前年差	-	13	8	1	1	1	1	3	3	1		1		1			
高校以外へ進む者(C)	12	10	3	9	9	9	9	6	5	6	6	8	5	9	6		
生徒数計(A)+(B)-(C)	188	176	164	167	165	146	145	131	118	135	131	138	125	141	23		
入学定員	隠岐 普、商	120	120	120	120	〔付記〕 他地域との出入は少ない。 公・私の圏域 = その他圏域 (比率 = 100 : 0)										予測値	40
	隠岐水産 水	80	80	80	80											160	
	計	200	200	200	200											160	
平均募集学級数(分校を除く)		2.5	2.5	2.5	2.5										2.0	0.5	
私立募集定員																	
	計																

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
 他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
 高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
 平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

隠岐島前

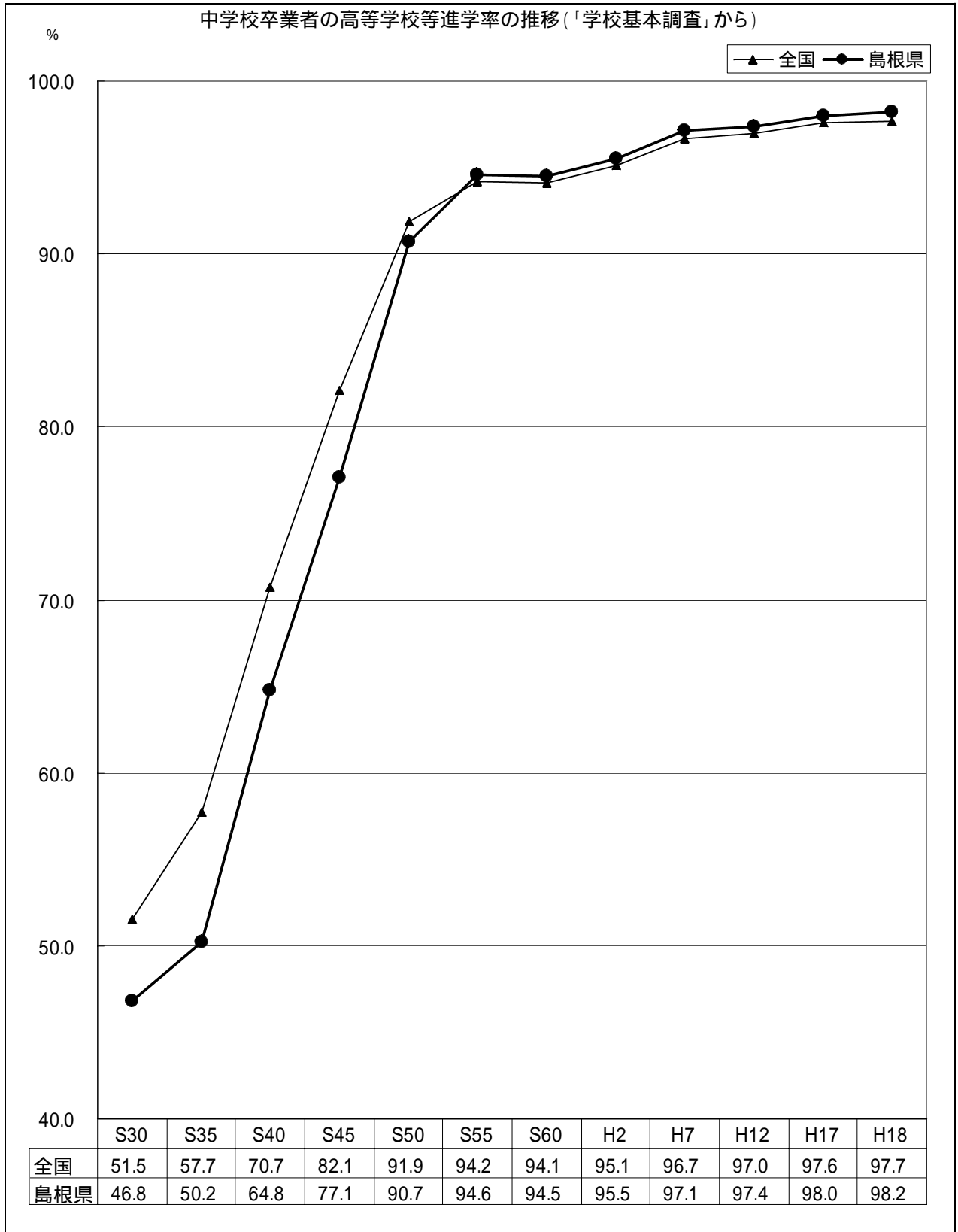
卒業年		H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H30- H19
H19.5.1現在の学年等		高3年	高2年	高1年	中3年	中2年	中1年	小6年	小5年	小4年	小3年	小2年	小1年	5歳	4歳	
中学校 卒業 者数	海士町	33	19	24	20	25	17	20	21	15	19	16	19	14	12	12
	西ノ島町	30	32	21	31	21	17	22	37	23	23	22	21	22	17	4
	知夫村	4	9	5	7	3	7	5	5	4	6	6	7	5	8	3
	計(A)	67	60	50	58	49	41	47	63	42	48	44	47	41	37	13
	対前年差		7	10	8	9	8	6	16	21	6	4	3	6	4	
他地域との 出入	安来市			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	松江市、八束郡	8	17	9	10	9	8	9	11	8	9	8	9	8	6	3
	雲南市															
	飯石郡															
	仁多郡															
	出雲市、簸川郡	1		1												1
	大田市															
	邑智郡															
	江津市															
	浜田市															
	益田市															
	鹿足郡															
	隠岐島後	11	6	3	6	5	4	5	7	4	5	5	5	4	4	1
県外			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
計(B)	20	23	15	18	16	14	16	20	14	16	15	16	14	12	3	
対前年差	-	3	8	3	2	2	2	4	6	2	1	1	2	2		
高校以外へ進む者(C)	6	2	2	3	2	2	2	3	2	2	2	2	2	2		
生徒数計(A)+(B)-(C)	41	35	33	37	31	25	29	40	26	30	27	29	25	23	10	
入学 定員	隠岐島前 普	80	40	40	40											
	計	80	40	40	40										40	
平均募集学級数(分校を除く)	2.0	1.0	1.0	1.0											1.0	
私立 募集 定員																
	計															

〔付記〕
松江市、隠岐島後の公立高校への進学が目立つ。
公・私圏域 = その他圏域 (比率 = 100 : 0)

予測値
40

中学校卒業生数...H20～H28はH19.5.1現在の小・中学校在籍者数。H29以降はH17国勢調査第1次基本集計結果の年齢別人口。
他地域との出入...他地域の中学校から地域内の高校への入学者数 - 地域内の中学校から他地域の高校への入学者数。H20以降は過去5年間の実績に基づく予測値。
高校以外へ進む者...特別支援学校、工業高等専門学校、各種学校、就職、その他。 入学定員...H30は生徒数及び現時点の公私比率による予測値(1学級40人定員)。
平均募集学級数...本校の入学定員を現時点の本校数×40人で除した数値。

中学校卒業者の高等学校等進学率の推移



〔注〕「高等学校等進学者」とは、高等学校・中等教育学校後期課程・盲・聾・養護学校高等部の本科、別科、及び高等専門学校へ進んだ者である。また、進学し、かつ、就職した者を含む。

公立高校(全日制課程)の学科別募集学級数と生徒数の状況

1. 学校規模(H20募集学級数)

H20募集学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	学校数
普通科	吉賀前 島前 (掛合) (佐田) (今市)	飯南 津和野	島根中央	大東 横田	安来	松江東			13(3)
+ 理数科					大益 田田	浜田		松江北 松江南 出雲	6
+ 英語科			江津						1
+ 体育科								大社	1
+ 国際文化観光				松江市女					1
+ 農業学科			矢上						1
+ 商業学科			隠岐						1
農業学科				出雲農					1
工業学科			江津工	出雲工		松江工			3
商業学科			情報科学 浜田商	出雲商		松江商			4
水産学科		浜田水 隠岐水							2
総合学科			邇摩		三刀屋				2
+ 農業学科				松江農					1
+ 工業、農業					益田翔陽				1
学校数	5(3)	4	8	8	5	4	-	4	38(3)

()内は分校で数は内数。

・1学級当たりの募集定員は県立高校は40人、松江市立女子高校はH20年度から30人。

・「+」は併設を意味する。

2. 学科の内訳(H19年度ベース)

普・専・総の募集定員の比率

	普通科系 学科	職業系学科					総合学科	
		農業	水産	工業	商業	その他		
島根県	61.9%	31.0%	(5.8%)	(2.6%)	(11.0%)	(11.6%)	(0.0%)	7.1%
鳥取県	55.2%	35.9%	(6.5%)	(1.6%)	(12.0%)	(10.4%)	(5.4%)	8.8%
岡山県	56.7%	38.8%	(5.6%)		(13.6%)	(13.0%)	(6.6%)	4.4%
広島県	65.7%	21.1%	(3.6%)		(8.5%)	(7.0%)	(2.0%)	13.2%
山口県	57.4%	34.5%	(4.8%)	(0.6%)	(15.9%)	(10.5%)	(2.7%)	8.0%
全国平均	69.2%	24.6%	(4.0%)	(0.5%)	(9.9%)	(8.2%)	(2.0%)	6.1%

他県調査結果から。

・普通科系学科には、理数科、体育科、英語科等を含む。

・その他には家庭、看護、福祉、情報学科等を含む。

・他県で設置されている家庭、福祉については、本県の場合、総合学科の系列として設定している。

・端数処理の関係上、普通科系学科、職業系学科、総合学科の合計が100%にならないところもある。

普通科系学科の募集定員の比率

	普通科	専門教育を主とする学科(普通科系)					計
		理数関係	語学関係	国際関係	体育関係	芸術関係	
島根県	90.7%	6.3%	1.0%	1.0%	1.0%		100.0%
鳥取県	92.6%	4.5%	1.4%	1.5%			100.0%
岡山県	89.4%	2.8%		1.1%	1.1%	5.6%	100.0%
広島県	98.6%			0.7%	0.7%		100.0%
山口県	94.9%	4.4%	0.7%				100.0%
全国平均	95.2%	1.6%	0.7%	0.9%	0.5%	0.4%	100.0%

他県調査結果から。

・その他は人間科学、文化科学、未来創造、キャリア探求等。

・総合学科を含まない。

3. 普通系学科(系列)の生徒数の状況(H19.5.1現在)

学校名	学科	第1学年				第2学年				第3学年				全学年			
		字級数	定員	生徒数	充足率	字級数	定員	生徒数	充足率	字級数	定員	生徒数	充足率	字級数	定員	生徒数	充足率
安来	普通	5	200	178	89.0%	5	200	150	75.0%	5	200	187	93.5%	15	600	515	85.8%
松江北	普通	7	280	282	100.7%	7	280	277	98.9%	7	280	254	90.7%	21	840	813	96.8%
	理数	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	1	40	39	97.5%	3	120	119	99.2%
	計	8	320	322	100.6%	8	320	317	99.1%	8	320	293	91.6%	24	960	932	97.1%
松江南	普通	7	280	280	100.0%	7	280	280	100.0%	7	280	260	92.9%	21	840	820	97.6%
	理数	1	40	42	105.0%	1	40	40	100.0%	1	40	38	95.0%	3	120	120	100.0%
	計	8	320	322	100.6%	8	320	320	100.0%	8	320	298	93.1%	24	960	940	97.9%
松江東	普通	6	240	240	100.0%	6	240	240	100.0%	7	280	269	96.1%	19	760	749	98.6%
松江市女	普通	3	120	105	87.5%	3	120	94	78.3%	3	120	91	75.8%	9	360	290	80.6%
	国観	1	40	7	17.5%	1	40	30	75.0%	1	40	39	97.5%	3	120	76	63.3%
	計	4	160	112	70.0%	4	160	124	77.5%	4	160	130	81.3%	12	480	366	76.3%
大東	普通	4	160	156	97.5%	4	160	144	90.0%	4	160	152	95.0%	12	480	452	94.2%
横田	普通	4	160	145	90.6%	4	160	147	91.9%	4	160	128	80.0%	12	480	420	87.5%
三刀屋	総合	5	200	161	80.5%	5	200	197	98.5%	5	200	174	87.0%	15	600	532	88.7%
	掛合 普通	1	40	19	47.5%	1	40	25	62.5%	1	40	25	62.5%	3	120	69	57.5%
飯南	普通	2	80	59	73.8%	2	80	48	60.0%	2	80	55	68.8%	6	240	162	67.5%
平田	普通	4	160	161	100.6%	4	160	156	97.5%	4	160	159	99.4%	12	480	476	99.2%
出雲	普通	8	320	321	100.3%	8	320	317	99.1%	8	320	311	97.2%	24	960	949	98.9%
	理数	1	40	40	100.0%	1	40	42	105.0%	1	40	38	95.0%	3	120	120	100.0%
	計	9	360	361	100.3%	9	360	359	99.7%	9	360	349	96.9%	27	1080	1069	99.0%
大社	普通	7	280	280	100.0%	7	280	275	98.2%	7	280	277	98.9%	21	840	832	99.0%
	体育	1	40	40	100.0%	1	40	39	97.5%	1	40	37	92.5%	3	120	116	96.7%
	計	8	320	320	100.0%	8	320	314	98.1%	8	320	314	98.1%	24	960	948	98.8%
佐田	普通	1	40	35	87.5%	1	40	22	55.0%	1	40	25	62.5%	3	120	82	68.3%
	普通	4	160	160	100.0%	4	160	153	95.6%	4	160	161	100.6%	12	480	474	98.8%
	理数	1	40	27	67.5%	1	40	35	87.5%	1	40	40	100.0%	3	120	102	85.0%
大田	計	5	200	187	93.5%	5	200	188	94.0%	5	200	201	100.5%	15	600	576	96.0%
川本	普通	H19募集停止				2	80	65	81.3%	2	80	70	87.5%	4	160	135	84.4%
邑智	普通	H19募集停止				2	80	18	22.5%	2	80	46	57.5%	4	160	64	40.0%
島根中央	普通	4	160	113	70.6%								4	160	113	70.6%	
矢上	普通	2	80	80	100.0%	2	80	79	98.8%	2	80	67	83.8%	6	240	226	94.2%
江津	普通	2	80	81	101.3%	2	80	80	100.0%	3	120	117	97.5%	7	280	278	99.3%
	英語	1	40	37	92.5%	1	40	24	60.0%	1	40	18	45.0%	3	120	79	65.8%
	計	3	120	118	98.3%	3	120	104	86.7%	4	160	135	84.4%	10	400	357	89.3%
浜田	普通	5	200	200	100.0%	6	240	234	97.5%	6	240	228	95.0%	17	680	662	97.4%
	理数	1	40	41	102.5%	1	40	38	95.0%	1	40	31	77.5%	3	120	110	91.7%
	計	6	240	241	100.4%	7	280	272	97.1%	7	280	259	92.5%	20	800	772	96.5%
今市	普通	1	40	28	70.0%	1	40	23	57.5%	1	40	17	42.5%	3	120	68	56.7%
益田	普通	4	160	160	100.0%	4	160	129	80.6%	4	160	159	99.4%	12	480	448	93.3%
	理数	1	40	40	100.0%	1	40	38	95.0%	1	40	32	80.0%	3	120	110	91.7%
	計	5	200	200	100.0%	5	200	167	83.5%	5	200	191	95.5%	15	600	558	93.0%
吉賀	普通	1	40	35	87.5%	1	40	43	107.5%	1	40	42	105.0%	3	120	120	100.0%
津和野	普通	2	80	82	102.5%	3	120	63	52.5%	3	120	84	70.0%	8	320	229	71.6%
隠岐	普通	2	80	74	92.5%	2	80	73	91.3%	2	80	76	95.0%	6	240	223	92.9%
隠岐島前	普通	1	40	33	82.5%	1	40	32	80.0%	2	80	38	47.5%	4	160	103	64.4%
合計	普通	87	3480	3307	95.0%	89	3560	3167	89.0%	92	3680	3298	89.6%	268	10720	9772	91.2%
	理数	6	240	230	95.8%	6	240	233	97.1%	6	240	218	90.8%	18	720	681	94.6%
	体育	1	40	40	100.0%	1	40	39	97.5%	1	40	37	92.5%	3	120	116	96.7%
	英語	1	40	37	92.5%	1	40	24	60.0%	1	40	18	45.0%	3	120	79	65.8%
	国観	1	40	7	17.5%	1	40	30	75.0%	1	40	39	97.5%	3	120	76	63.3%
	総合	5	200	161	80.5%	5	200	197	98.5%	5	200	174	87.0%	15	600	532	88.7%
	計	101	4040	3782	93.6%	103	4120	3690	89.6%	106	4240	3784	89.2%	310	12400	11256	90.8%

三刀屋...人文科学系列、人文情報系列、総合人間系列、理数科学系列、理数情報系列

4. 職業系学科(系列)の生徒数の状況(H19.5.1現在)
農業に関する学科

学校名	学科	第1学年				第2学年				第3学年				全学年			
		学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率
		松江農林	生物	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	1	40	38	95.0%	3	120
	環土	1	40	40	100.0%	1	40	39	97.5%	1	40	40	100.0%	3	120	119	99.2%
	計	2	80	80	100.0%	2	80	79	98.8%	2	80	78	97.5%	6	240	237	98.8%
出雲農林	植科	1	40	37	92.5%	1	40	38	95.0%	1	40	27	67.5%	3	120	102	85.0%
	食科	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	1	40	36	90.0%	3	120	116	96.7%
	動科	1	40	40	100.0%	1	40	38	95.0%	1	40	33	82.5%	3	120	111	92.5%
	環科	1	40	41	102.5%	1	40	33	82.5%	1	40	27	67.5%	3	120	101	84.2%
	計	4	160	158	98.8%	4	160	149	93.1%	4	160	123	76.9%	12	480	430	89.6%
矢上	産技	1	40	36	90.0%	1	40	35	87.5%	1	40	35	87.5%	3	120	106	88.3%
益田産業	生生									1	40	38	95.0%	1	40	38	95.0%
	環土									1	40	37	92.5%	1	40	37	92.5%
	計									2	80	75	93.8%	2	80	75	93.8%
益田翔陽	生生	1	40	34	85.0%	1	40	40	100.0%					2	80	74	92.5%
	環土	1	40	18	45.0%	1	40	33	82.5%					2	80	51	63.8%
	計	2	80	52	65.0%	2	80	73	91.3%					4	160	125	78.1%
合計		9	360	326	90.6%	9	360	336	93.3%	9	360	311	86.4%	27	1080	973	90.1%

商業に関する学科

学校名	学科	第1学年				第2学年				第3学年				全学年			
		学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率
		情科	マルチ					1	40	31	77.5%	1	40	36	90.0%	2	80
	情処					1	40	39	97.5%	1	40	40	100.0%	2	80	79	98.8%
	情シ					1	40	29	72.5%	1	40	25	62.5%	2	80	54	67.5%
	くくり	3	120	92	76.7%									3	120	92	76.7%
	計	3	120	92	76.7%	3	120	99	82.5%	3	120	101	84.2%	9	360	292	81.1%
松江商業	商業					4	160	158	98.8%	4	160	127	79.4%	8	320	285	89.1%
	情処					1	40	40	100.0%	1	40	39	97.5%	2	80	79	98.8%
	国際					1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	2	80	80	100.0%
	くくり	6	240	241	100.4%									6	240	241	100.4%
	計	6	240	241	100.4%	6	240	238	99.2%	6	240	206	85.8%	18	720	685	95.1%
出雲商業	商業	3	120	121	100.8%	3	120	117	97.5%	2	80	77	96.3%	8	320	315	98.4%
	国経							0		1	40	38	95.0%	1	40	38	95.0%
	情処	1	40	40	100.0%	1	40	42	105.0%	2	80	74	92.5%	4	160	156	97.5%
	計	4	160	161	100.6%	4	160	159	99.4%	5	200	189	94.5%	13	520	509	97.9%
浜田商業	商業	2	80	80	100.0%	2	80	75	93.8%	2	80	73	91.3%	6	240	228	95.0%
	国ビ	1	40	40	100.0%	1	40	37	92.5%	1	40	34	85.0%	3	120	111	92.5%
	情処	1	40	36	90.0%	1	40	37	92.5%	1	40	40	100.0%	3	120	113	94.2%
	計	4	160	156	97.5%	4	160	149	93.1%	4	160	147	91.9%	12	480	452	94.2%
隠岐	商業	1	40	35	87.5%	1	40	41	102.5%	1	40	38	95.0%	3	120	114	95.0%
合計		18	720	685	95.1%	18	720	686	95.3%	19	760	681	89.6%	55	2200	2052	93.3%

水産に関する学科

学校名	学科	第1学年				第2学年				第3学年				全学年			
		学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率
		浜田水産	海技	1	40	29	72.5%	1	40	24	60.0%	1	40	23	57.5%	3	120
	食流	1	40	26	65.0%	1	40	22	55.0%	1	40	30	75.0%	3	120	78	65.0%
	計	2	80	55	68.8%	2	80	46	57.5%	2	80	53	66.3%	6	240	154	64.2%
隠岐水産	海シ	1	40	38	95.0%	1	40	38	95.0%	1	40	33	82.5%	3	120	109	90.8%
	海生	1	40	18	45.0%	1	40	22	55.0%	1	40	30	75.0%	3	120	70	58.3%
	計	2	80	56	70.0%	2	80	60	75.0%	2	80	63	78.8%	6	240	179	74.6%
合計		4	160	111	69.4%	4	160	106	66.3%	4	160	116	72.5%	12	480	333	69.4%

工業に関する学科

学校名	学科	第1学年				第2学年				第3学年				全学年			
		学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率
松江工業	機械					1	40	40	100.0%	1	40	34	85.0%	2	80	74	92.5%
	電気					1	40	31	77.5%	1	40	37	92.5%	2	80	68	85.0%
	電子					1	40	37	77.5%	1	40	28	70.0%	2	80	65	81.3%
	情技					1	40	40	100.0%	1	40	39	97.5%	2	80	79	98.8%
	電機					1	40	41	102.5%	1	40	33	82.5%	2	80	74	92.5%
	建築					1	40	34	85.0%	1	40	36	90.0%	2	80	70	87.5%
	土木					1	40	35	87.5%	1	40	19	47.5%	2	80	54	67.5%
	機械・電子機械	2	80	80	100.0%									2	80	80	100.0%
	電気・電子・情報技術	3	120	107	89.2%									3	120	107	89.2%
	建築・土木	2	80	53	66.3%									2	80	53	66.3%
計	7	280	240	85.7%	7	280	258	92.1%	7	280	226	80.7%	21	840	724	86.2%	
出雲工業	機械	1	40	40	100.0%	1	40	36	90.0%	1	40	40	100.0%	3	120	116	96.7%
	電気	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	3	120	120	100.0%
	建築	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	1	40	36	90.0%	3	120	116	96.7%
	環シ	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	1	40	38	95.0%	3	120	118	98.3%
	電機	1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%	1	40	39	97.5%	3	120	119	99.2%
計	5	200	200	100.0%	5	200	196	98.0%	5	200	193	96.5%	15	600	589	98.2%	
江津工業	機械	1	40	38	95.0%	1	40	39	97.5%	1	40	30	75.0%	3	120	107	89.2%
	建築	1	40	32	80.0%	1	40	26	65.0%	1	40	32	80.0%	3	120	90	75.0%
	総電	1	40	31	77.5%	1	40	35	87.5%	1	40	19	47.5%	3	120	85	70.8%
	計	3	120	101	84.2%	3	120	100	83.3%	3	120	81	67.5%	9	360	282	78.3%
益田工業	電気									1	40	33	82.5%	1	40	33	82.5%
	電機									1	40	29	72.5%	1	40	29	72.5%
	計									2	80	62	77.5%	2	80	62	77.5%
益田翔陽	電気	1	40	32	80.0%	1	40	30	75.0%					2	80	62	77.5%
	電機	1	40	32	80.0%	1	40	39	97.5%					2	80	71	88.8%
	計	2	80	64	80.0%	2	80	69	86.3%					4	160	133	83.1%
合計	17	680	605	89.0%	17	680	623	91.6%	17	680	562	82.6%	51	2040	1790	87.7%	

総合学科（職業系系列）

学校名	学科	第1学年				第2学年				第3学年				全学年			
		学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率
松江農林	総合	2	80	80	100.0%	2	80	81	101.3%	2	80	78	97.5%	6	240	239	99.6%
邇摩	総合	3	120	107	89.2%	4	160	126	78.8%	4	160	136	85.0%	11	440	369	83.9%
益田産業	総合									1	40	40	100.0%	1	40	40	100.0%
益田翔陽	総合	1	40	41	102.5%	1	40	39	97.5%					2	80	80	100.0%
合計		6	240	228	95.0%	7	280	246	87.9%	7	280	254	90.7%	20	800	728	91.0%

松江農林...食品科学系列、福祉サービス系列、地域クリエイティブ系列
 邇摩...ビジネス系列、環境系列、生活・文化系列、福祉系列
 益田翔陽(益田産業)...食品科学系列、生活文化・福祉系列

職業系学科(系列)計	54	2160	1955	90.5%	55	2200	1997	90.8%	56	2240	1924	85.9%	165	6600	5876	89.0%
------------	----	------	------	-------	----	------	------	-------	----	------	------	-------	-----	------	------	-------

職業系学科(系列)計には専攻科を含まない。

専攻科

学校名	学科	第1学年				第2学年				全学年			
		学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率	学級数	定員	生徒数	充足率
浜田水産	漁業			4				4				8	
	機関			3				1				4	
	計	1	10	7	70.0%	1	10	5	50.0%	2	20	12	60.0%
隠岐水産	漁業			6				4				10	
	機関			3				1				4	
	計	1	10	9	90.0%	1	10	5	50.0%	2	20	14	70.0%
専攻科合計		2	20	16	80.0%	2	20	10	50.0%	4	40	26	65.0%

職業系の各専門学科と総合学科の各系列の特色(平成20年度版)

【職業系の各専門学科】

1) 農業に関する学科

学科名	学科の特色
植物科学科 〔出雲農林〕	植物の栽培や植物バイオテクノロジーを、実習やプロジェクト学習を中心に学ぶ。植物の生命力を活用し、安全な食料生産と豊かな生活の実現を目指し、植物の栽培、活用、経営ができる人を育てる。 2年から草花栽培コースと作物栽培コースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
環境科学科 〔出雲農林〕	環境の調査や設計・デザインなどを、実習・インターンシップを中心に学ぶ。自然環境や緑化植物を活用し、快適な環境づくりと豊かな住生活の実現を目指し、測量、造園デザイン、施工ができる人を育てる。 2年から環境土木コースと造園デザインコースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
食品科学科 〔出雲農林〕	食品の製造と分析を実験や実習を中心に学ぶ。食材や微生物を活用し、安全な食品製造と豊かな食生活の実現を目指し、食品の加工、流通ができる人を育てる。 2年から食品化学コースと食品醸造コースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
動物科学科 〔出雲農林〕	動物の飼育や動物バイオテクノロジーを、実習やプロジェクト学習を中心に学ぶ。動物のもつ生産力や癒す力を活用し、安全な食料生産と豊かな生活の実現を目指し、動物の飼育、活用、経営ができる人を育てる。 2年から産業動物コースと社会動物コースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
生物生産科 〔松江農林〕	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学・就職など進路に適した選択科目を開設している。 ・ 農業技術者など将来のスペシャリスト育成を目指す。 ・ 食料生産技術を習得し、それを技術革新などに対応できる人材の育成を目指す。 ・ 2年から施設園芸コースと生物工学コースと農業機械コースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
環境土木科 〔松江農林〕	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市や農村関係の整備に関する計画・調査設計・施工管理を学習する。 ・ 環境保全や景観美化などを学習し、安全で快適な生活環境を作り出す人材の育成を目指す。 ・ コース別専門学習により、土木および造園分野の技術者など将来のスペシャリスト育成を目指す。 ・ 2年から土木コースと造園コースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
環境土木科 〔益田翔陽〕	自然と調和した住みよい環境の創造を図る能力を養い、都市や農村の社会基盤整備及び安全で快適な生活環境を作る技術を身につけた人材を養成することを目標としている。
生物生産工学科 〔益田翔陽〕	農業に関する基礎的な知識や技術を習得するとともに、バイオテクノロジーによる植物栽培や、生産から加工流通までをとおした学習によって、社会の変化に対応できる実践的知識と技術を身につけた人材を育成する。 3年から食料生産コースと生物工学コースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
産業技術科 〔矢上〕	1年は「農業科学基礎」で栽培・飼育の基礎的な学習と「工業基礎」で工業の基礎的な学習を行う。2年は各コース(植物栽培技術コース・動物管理技術コース・工業技術コース)の各分野に分かれてより専門的な学習を行い、幅広い知識と技術をもった産業人を育成する。

2) 工業に関する学科

学科名	学科の特色
機械科 〔松江工業〕 〔松江工業併定〕 〔出雲工業〕 〔江津工業〕	機械技術者は工業のあらゆる分野で必要とされており、工業におけるさまざまな種類の機械を設計、製作、操作できるように、機械の基本を実習を通して分かりやすく学習する。
電子機械科 〔松江工業〕 〔出雲工業〕 〔益田翔陽〕	身の回りにある、自動車や電気製品、工場で使用されている工作機械のように、コンピュータと機械・制御技術が手を結びあった最先端の電子機械や生産システムに対応できる知識や技術者を身につけ将来のスペシャリストをめざす。 3年はロボット製作に取り組んでいる。
電気科 〔松江工業〕 〔松江工業併定〕 〔出雲工業〕 〔益田翔陽〕	現代社会において必要不可欠な電気。その大切な電気を作り出し、家庭や工場に送ったり、その電気を使っているいろいろな製品を生み出したりするのに必要な知識や技術を身につけ、電気のスペシャリストをめざす。
電子科 〔松江工業〕	コンピュータ、携帯電話、衛星放送、ゲーム機など電子技術のめざましい進歩に応じて、それら最先端の技術の基礎知識を学習し、マルチメディア時代に対応できる技術者を育成する。
情報技術科 〔松江工業〕	インターネットに代表されるネットワーク技術、音声・映像を加工するマルチメディア技術、3D映像などのコンピュータグラフィックなど、コンピュータの様々な分野に応じた知識や技術を学び、自在に操ることのできる技術者を育成する。
総合電気科 〔江津工業〕	電気・電子及びコンピュータに関する知識と技術を学び、これらに関連する諸分野で活躍できる技術者を育成する。 2年から電力技術コースと電子情報技術コースに分かれて、それぞれの専門性を深めるための学習内容に入る。
建築科 〔松江工業併定〕 〔出雲工業〕 〔江津工業〕	美しくかつ力学的根拠を備えた建築物を設計するための基礎的知識を学び、個性を生かした創造的建築空間をうみだす建築のスペシャリストを育成する。
建築都市工学科 〔松江工業〕	2年から建築コースと都市工学コースに分かれる。 建築コースでは、二級建築士の受験科目を中心に学習し、建築物の設計や施工管理ができる人材の育成を目指す。 都市工学コースでは、測量実習や施工技術を中心に学習し、環境に配慮したまちづくりができる人材の育成を目指す。

3) 商業に関する学科

学科名	学科の特色
商業科 〔松江商業〕 〔出雲商業〕 〔浜田商業〕 〔隠岐〕	商品の生産・流通・消費にかかわるビジネスを中心とした経済の諸活動を学習し、マーケティングの実践を通して社会に貢献できる人材を育成する。
情報処理科 〔情報科学〕 〔松江商業〕 〔出雲商業〕 〔浜田商業〕	コンピュータの活用に関する知識と技術を習得し、ビジネスの諸活動に関する意義や役割を学習し、情報を適切に収集、活用する能力を発揮できる人材を育成する。
情報システム科 〔情報科学〕	コンピュータに関して、その使い方や構造などを最新の機器を使って、初歩から学んでいく。さらに、プログラムを作成したり、パソコンの組み立てやネットワークの構築などの実習をまじえて、情報システムに関する実際的な知識や技術を学ぶ。
マルチメディア科 〔情報科学〕	コンピュータに関して、主にソフトウェアとハードウェアの基礎的な知識・技術を修得し、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身に付け、コンピュータデザインや画像の処理などに関する基礎的な学習を通じてマルチメディアを効果的に活用できる人材を育成する。
国際ビジネス科 〔松江商業〕	ビジネス教育と国際理解教育を基礎として、商業の各分野の発展的・応用的な内容も学習する。将来の専門家を目指して、大学等で高度な知識・技術を学び続けるための進学に対応した教育も展開する。

4) 水産に関する学科

学科名	学科の特色
海洋システム科 〔隠岐水産〕	<p><海洋テクノコース> 海洋や魚類に関すること、漁業生産や船舶の運航に関する知識を学び、漁業生産技術者、船舶職員及び陸上水産関連企業従事者を養成する。</p> <p><エンジニアコース> 船の機関装置の運転や整備などの知識・技術を学び、船の機関部および陸上産業部門のエンジン・機械等関連機器の運転・操作に従事する技術者を養成する。</p>
海洋技術科 〔浜田水産〕	<p><海洋コース> 船舶の操縦及び海洋生産に関する学習により、海技士(船長・航海士)への道を開く。「船長コース」と言ってもよく、航海学・船体構造・気象・海の法律などを学ぶ。実習では、モーターボートの操縦、ヨットでの帆走、カヌーやカッターの漕艇など、船の操縦の基礎実習、漁具の製作や魚釣り等の漁業実習を行う。</p> <p><機関コース> 船舶のエンジンに関する学習により、海技士(機関長・機関士)への道を開く。ディーゼル・ボイラー・冷凍機・発電機・自動制御装置などの機械を安全に効率よく運転することを学び、エンジニアへの道を開く。実習では、電気実習・溶接・旋盤・機関の開放、点検などを行う。</p>
海洋生産科 〔隠岐水産〕	<p><食品生産コース> 水産物の利用、加工および食品全般にわたる基礎技術を学び食品製造や経営に従事する技術者を養成する。</p> <p><資源生産コース> 魚介類の養殖、海洋環境や魚類、沿岸漁業に関する知識技術を学び、栽培漁業生産の技術者、経営者を養成する。</p>
食品流通科 〔浜田水産〕	水産食品の製造、流通及び食品の品質管理や安全管理に関する基礎的な知識と技術について学習し、幅広く食品関連産業の発展に寄与する人材を養成する。

5) 家庭に関する学科

学科名	学科の特色
家政科 〔松江南穴道分校〕	家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を学び、主体的・実践的に家庭生活や社会生活をおくる能力や態度を育成する。

【総合学科の各系列】

1) 三刀屋高校

系列名	系列の特色
人文科学系列	日本と世界の政治・経済・文化・歴史や、言語に関する科目を学び、文学・語学・法学・教育学系への大学進学に向けた学習をする。
人文情報系列	政治・経済・文化・歴史・言語など幅広い知識の学習と、コンピュータの活用に関する専門的な学習をし、文系の進学、就職に向けた学習をする。
総合人間系列	日本や世界の文化・歴史・言語・自然科学などの幅広い知識に関する学習や、芸術・体育・家庭に関する実技、コンピュータの活用など専門的な学習をし、芸術・体育・福祉系の進学、就職に向けた学習をする。
理数科学系列	理科・数学など自然科学への興味を深める理数系全般の幅広い知識を学習し、理学・工学系への大学進学に向けた学習をする。
理数情報系列	理数系全般の知識の学習と、コンピュータの活用に関する専門的な学習をし、理科系の進学・就職に向けた学習をする。

2) 邇摩高校

系列名	系列の特色
ビジネス系列	コンピュータ等による情報処理や簿記・会計に関する科目を中心に学習し、情報処理、簿記などの資格取得をめざし、進学や就職に対応する。商品の流通に関する科目の学習も行い、ワープロ・簿記・コンピュータ利用技術などの資格取得をめざし、就職にすぐに役立つ力を身につける。
生活・文化系列	食物・被服・保育・文化に関する家庭科系科目及び文化系科目を中心に学習し、文系大学・短大・高専などへの進学や就職に対応する。
環境系列	農業や環境資源に関する科目を中心に学習し、測量士補、危険物取扱者などの資格取得をめざし、農業系への進学や就職に対応する。
福祉系列	福祉・看護に関する科目を中心に学習し、福祉関係への進学や就職に対応する。

3) 松江農林高校

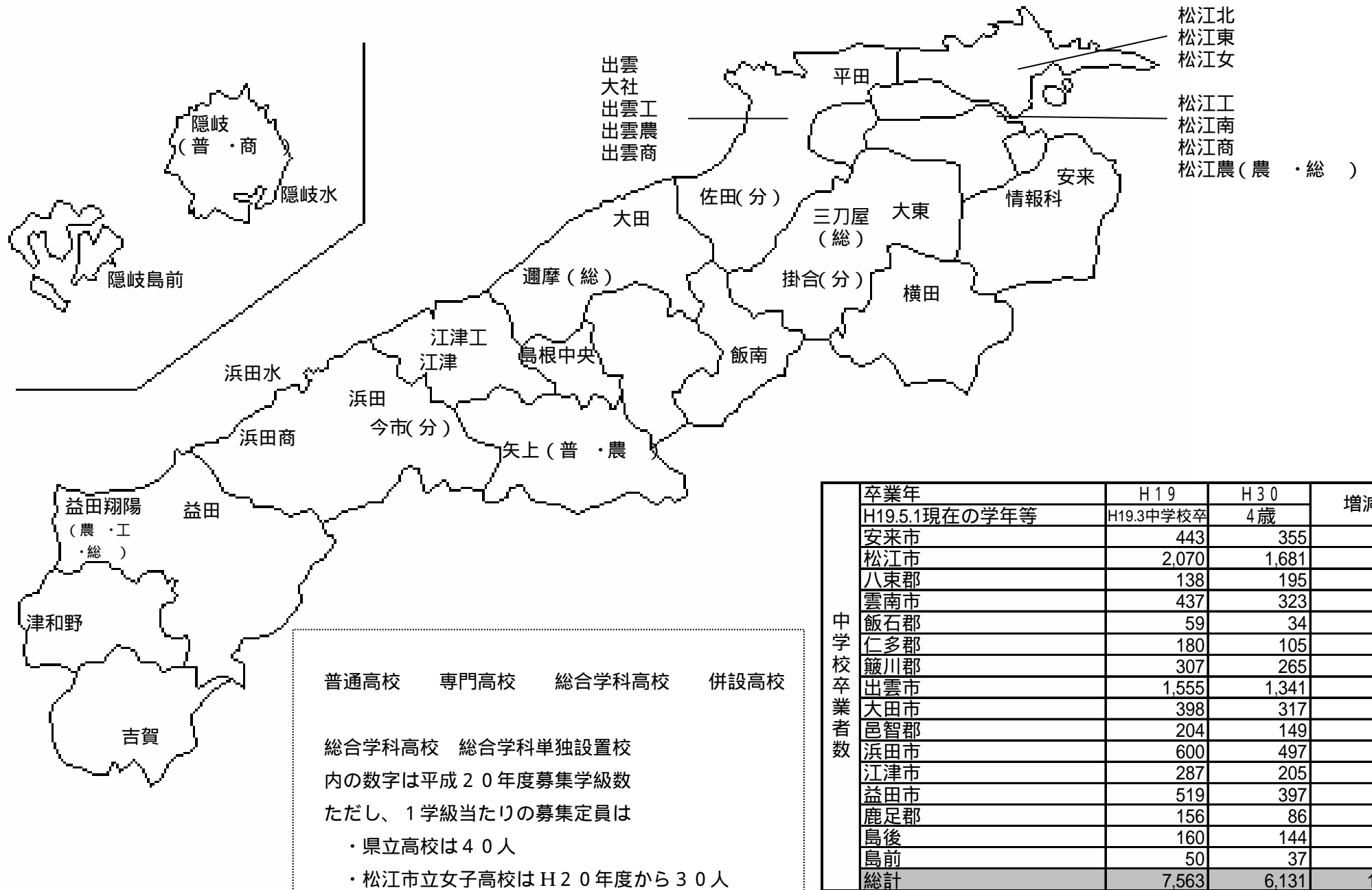
系列名	系列の特色
食品科学系列	経済社会の進展にともない安全で質の高い食品が求められている中で、食品の加工・貯蔵・品質管理及び食品衛生や流通に関する知識と技術を習得させ、食品の製造及び流通にかかわる業務に従事し、郷土の食文化の向上に寄与できる人材の育成を図るとともに関連する大学・専門学校へ進学できる能力を育てる。
福祉サービス系列	福祉に関する専門的学習と技術習得のための実習を通して、社会福祉についての深い理解と生命尊重の心を持ち、介護支援ができる人材の育成を目指す。基礎看護、基礎介護、社会福祉制度、児童文化等を学び、福祉について幅広くかつ専門的に学習できるように教育課程が編成してあるため、関連する大学・専門学校等への進学にも対応できる。
地域クリエイト系列	美しく自然豊かな郷土の自然・文化について理解を深め、故郷を愛する心を育てる。また、島根県の将来あるべき姿を展望し、環境問題・地域振興・伝統産業・自然保護等について学習し、地域社会の活性化を目指す人材を育成すると共に、関連する大学や専門学校へ進学できる能力を身につけさせる。

4) 益田翔陽高校

系列名	系列の特色
食品科学系列	食品の加工・分析・流通に関する基礎的な知識や技術を習得し、食や食文化の向上について総合的に学ぶ。
生活文化・福祉系列	衣服・食事・住居を中心とした豊かな生活文化の創造について、また児童・高齢者・障害者の介護や福祉について理解を深め、より健康的な生活について総合的に学ぶ。

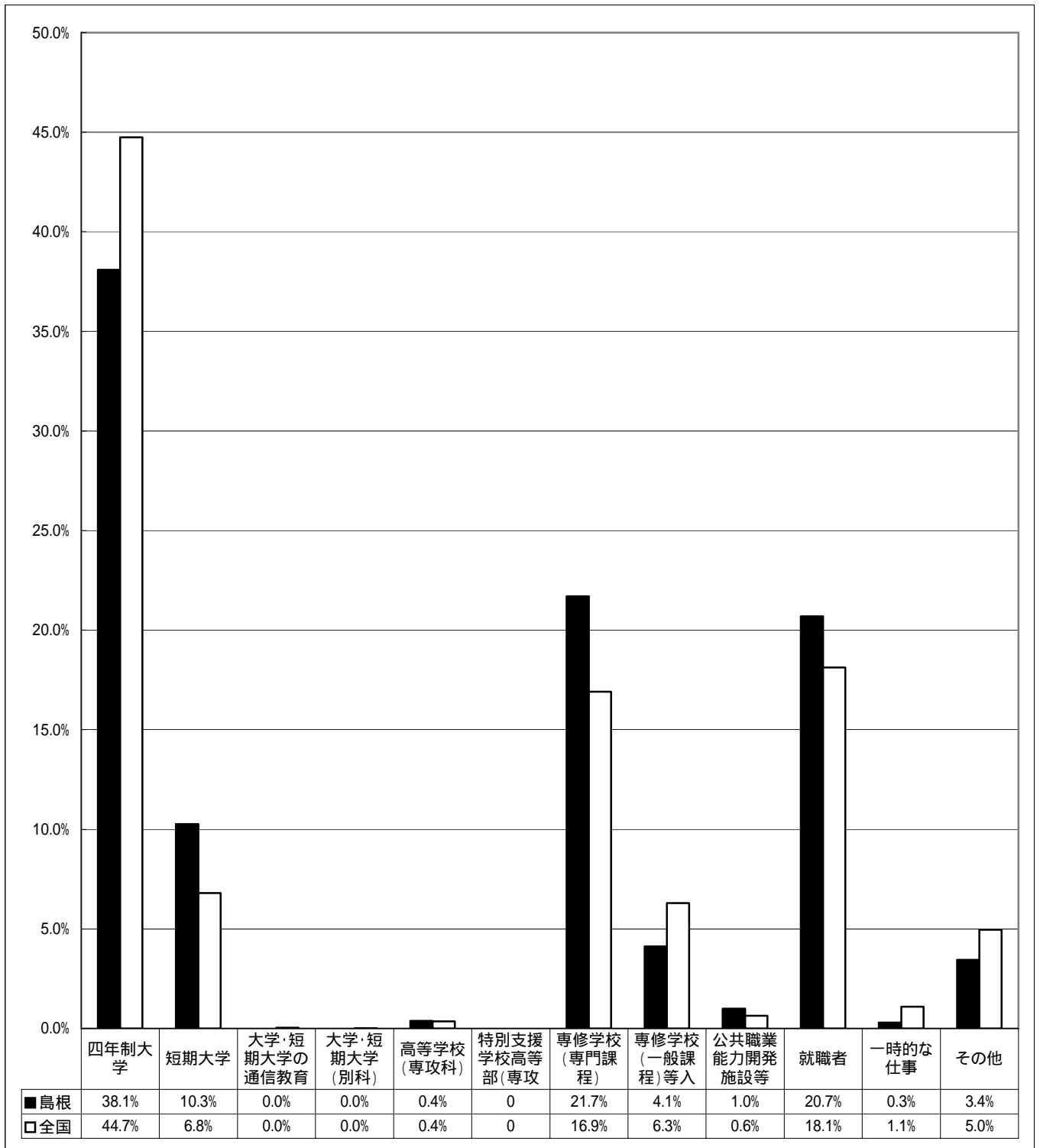
公立高校（全日制課程）配置図

参考資料 1 1



高校（全日制課程）卒業者の進路状況〔平成19年3月卒業者〕

〔H19 学校基本調査より〕



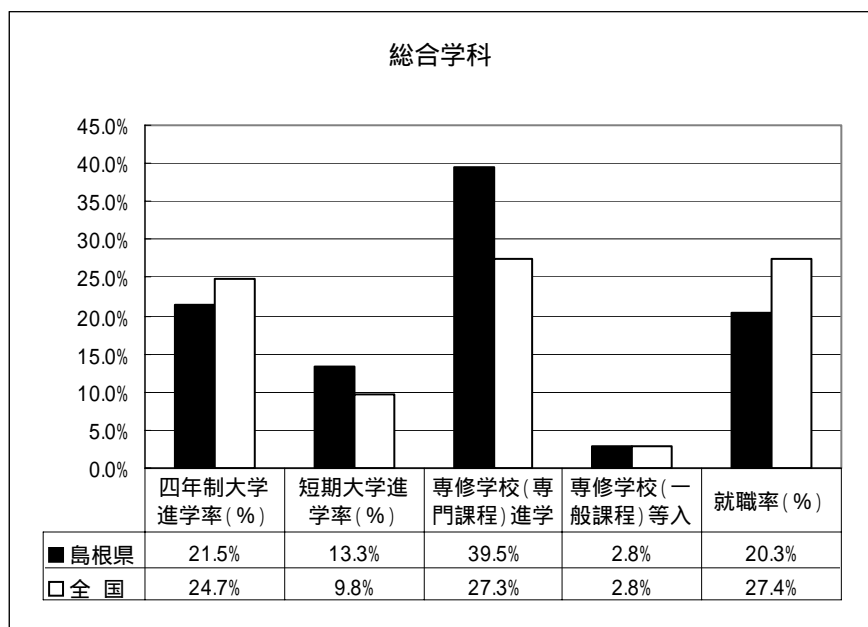
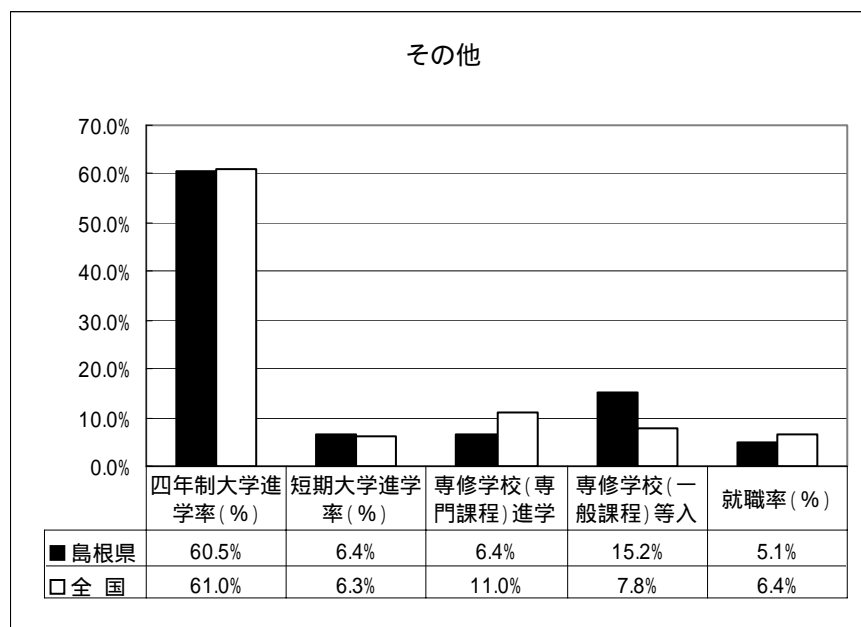
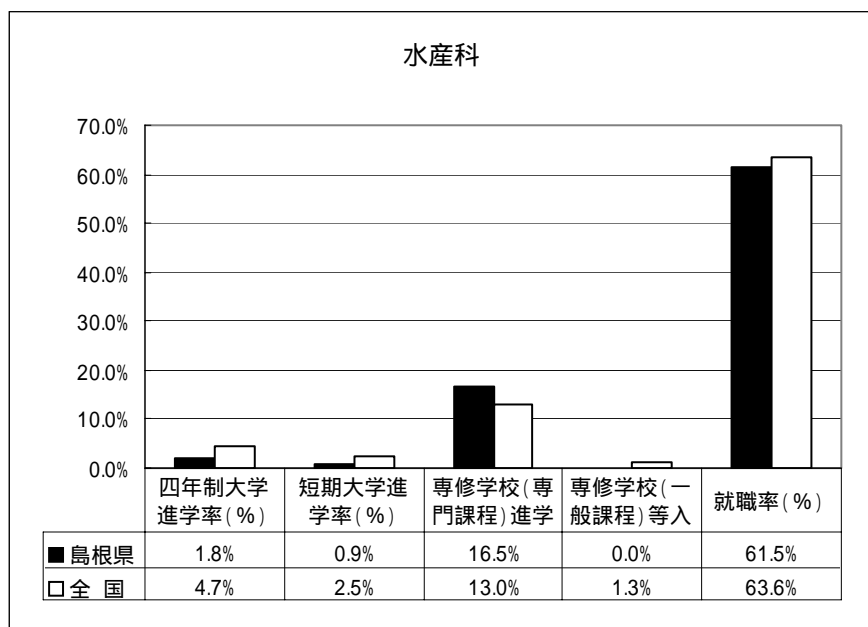
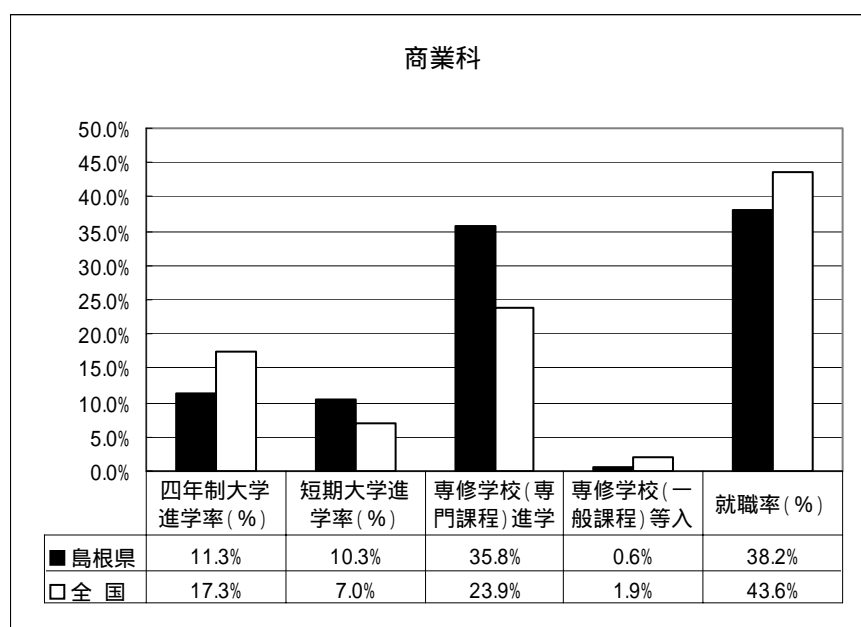
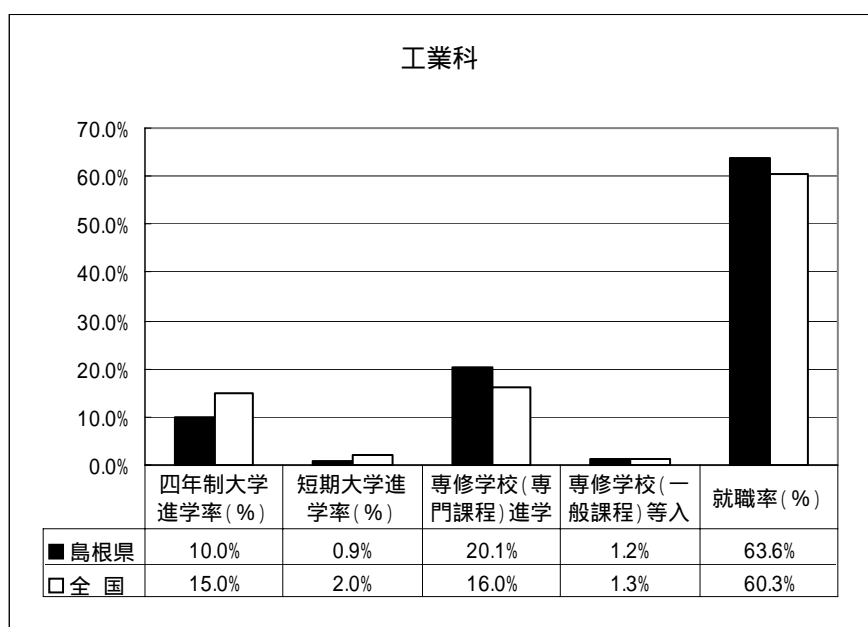
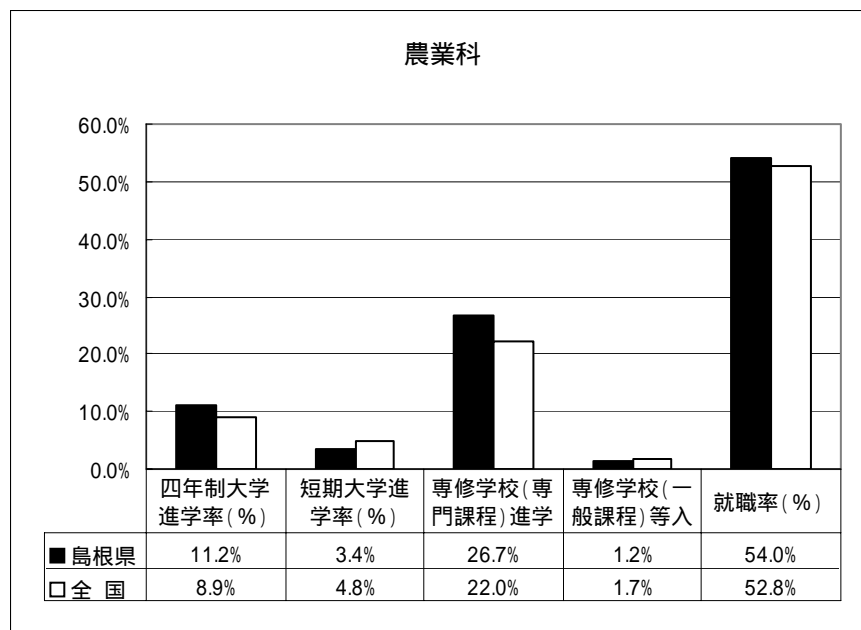
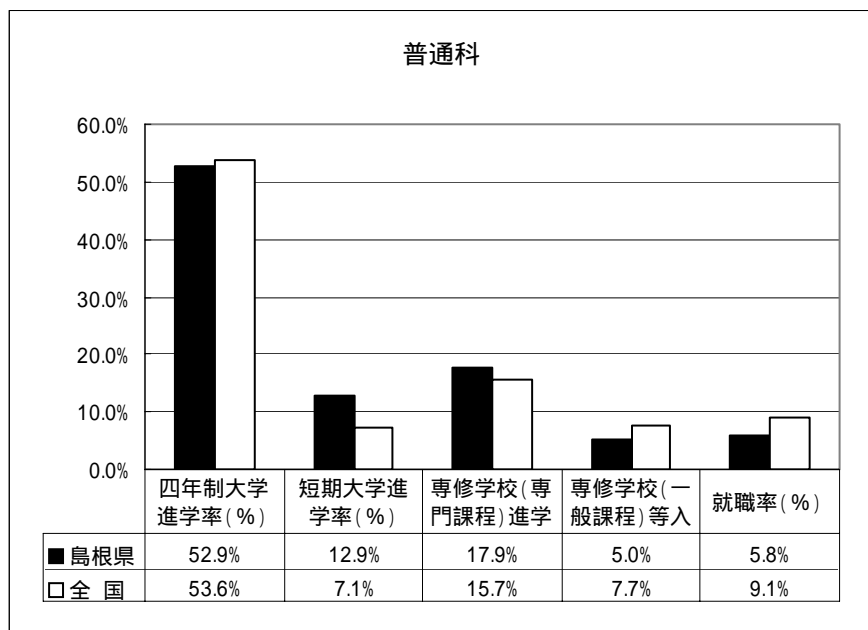
島根県の数値 ... 公立高校の全日制課程を集計したもの。

全国の数値 ... 公立及び私立高校の全日制課程を集計したもの

学科別進路状況〔平成19年3月卒業生〕(全国比較)

〔H19 学校基本調査より〕

島根県の数値 ... 公立高校の全日制課程を集計したもの。
 全国の数値 ... 公立及び私立高校の全日制課程を集計したもの。



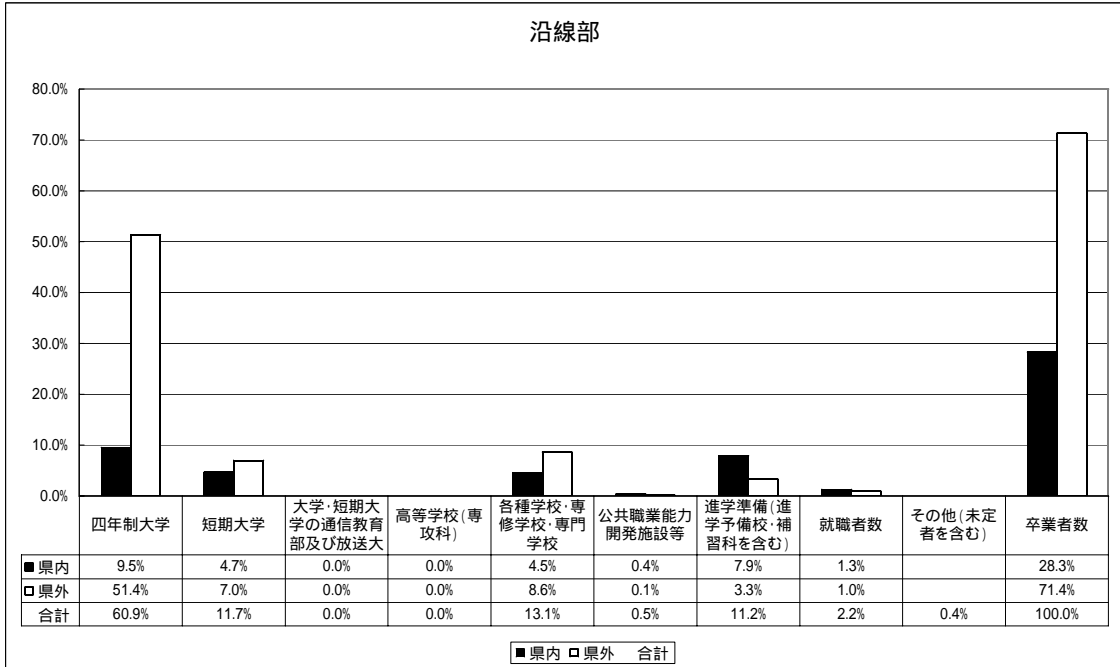
農業科には産業技術科を含む。
 商業科には、情報流通科を含む。
 その他は、理数科・英語科・国際文化科・体育科等である。

県立高校（全日制課程）卒業者の進路状況〔平成19年3月卒業者〕

〔高校教育課調査による〕

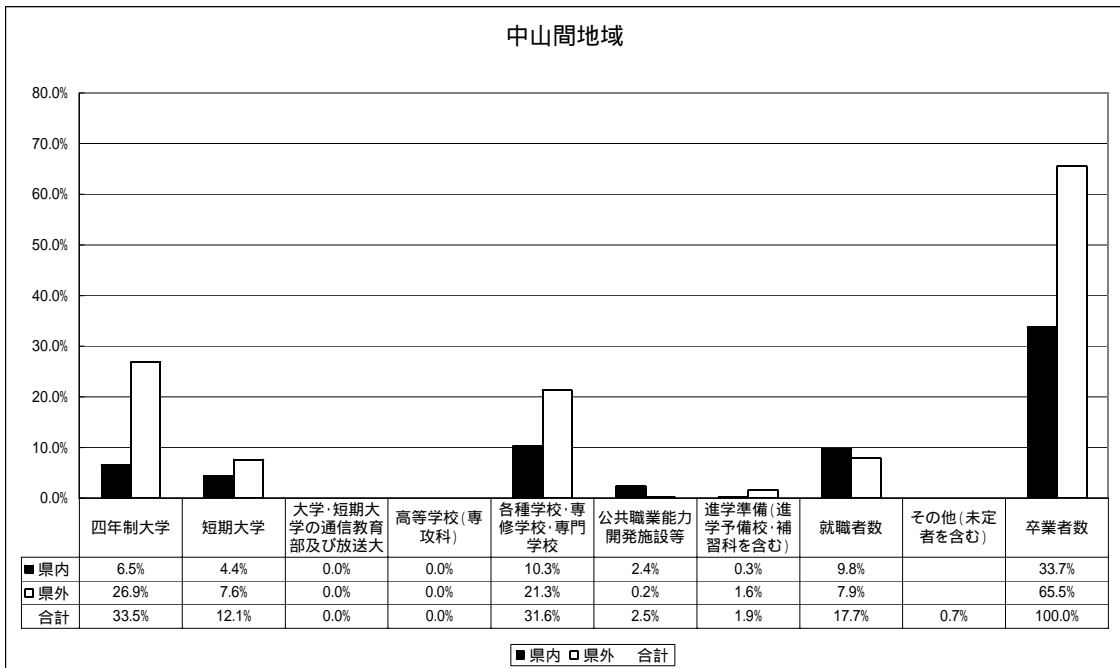
〔沿線部の普通高校〕

安来高校 松江北高校 松江南高校 松江東高校 平田高校
 出雲高校 大社高校 大田高校 江津高校 浜田高校
 益田高校



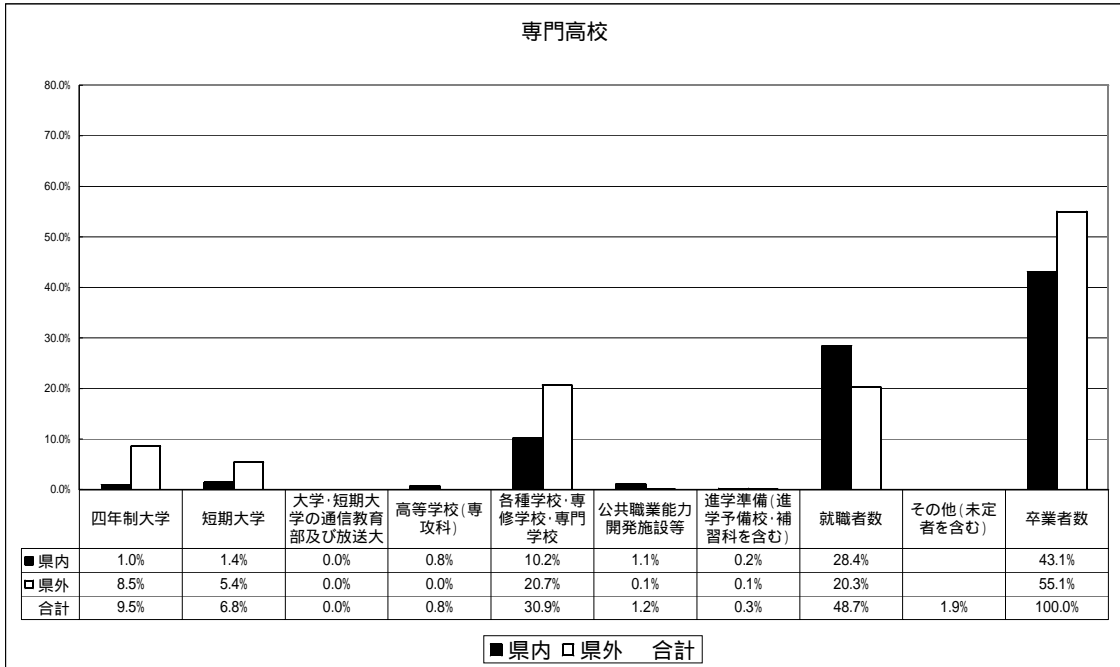
〔中山間地域の普通高校〕

大東高校 横田高校 飯南高校 邑智高校 吉賀高校
 津和野高校 隠岐島前高校 三刀屋高校 川本高校 矢上高校
 隠岐高校 (掛合分校) (佐田分校) (今市分校)

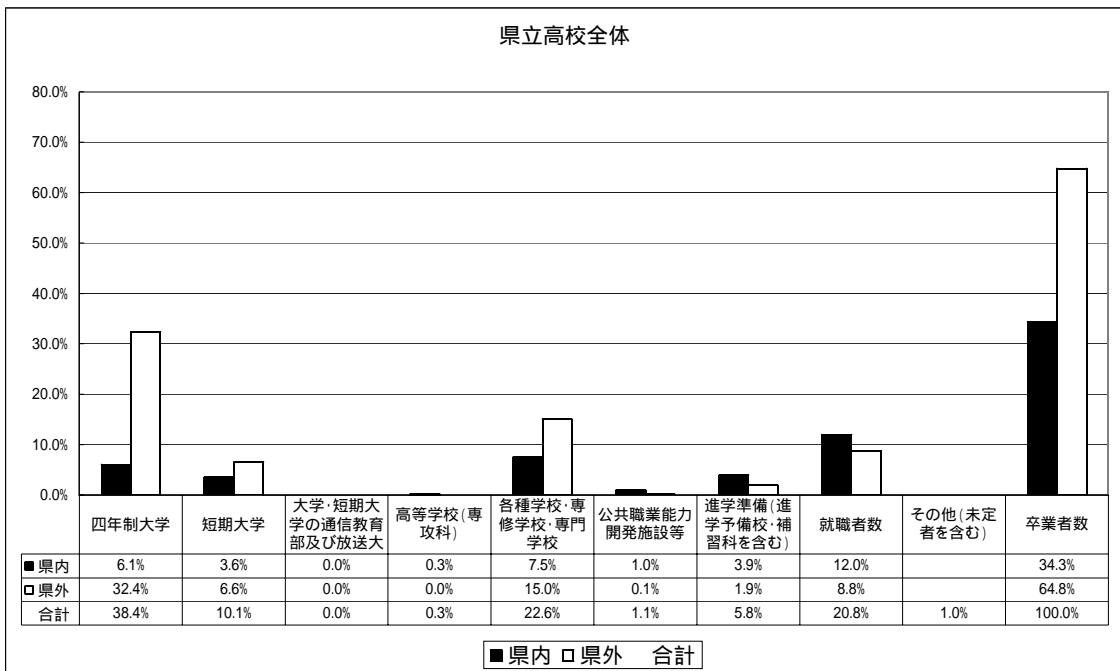


〔 専門高校 〕

松江工業高校 出雲工業高校 江津工業高校 益田工業高校 情報科学高校
 松江商業高校 出雲商業高校 浜田商業高校 松江農林高校 出雲農林高校
 益田産業高校 浜田水産高校 隠岐水産高校 邇摩高校



〔 県立高校全体 〕



魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会による学校視察の概要

視 察 日	視 察 先	概 要	出席委員（敬称略）
H18.6.9(金)	江津工業高校 10:30～12:30	・学校状況説明 ・教職員との意見交換 ・授業（実習）視察	鞆嶋、竹村、寺本恵、 宮内
	浜田水産高校 14:00～16:00	・学校状況説明 ・教職員との意見交換 ・生徒との意見交換	鞆嶋、竹村、寺本恵、 宮内
H18.7.7(金)	出雲商業高校 10:30～12:30	・学校状況説明 ・授業視察 ・生徒との意見交換 ・教職員との意見交換	井上、多々納、大多和、 鞆嶋、白川、寺本淳、 福間、宮内
	出雲農林高校 13:30～15:30	・学校状況説明 ・施設視察 ・生徒との意見交換 ・教職員との意見交換	井上、多々納、鞆嶋、 白川、福間、宮内
H18.7.14(金)	松江東高校 10:00～12:00	・授業視察、生徒との意見交換 ・学校状況説明 ・教職員との意見交換	井上、多々納、大多和、 白川、平川、藤原、 宮内、宮脇、横田
	松江農林高 13:00～15:00	・生徒による学校紹介、意見交換 ・学校状況説明 ・教職員との意見交換	井上、大多和、白川、 藤原、宮内、横田
H18.7.20(木)	隠岐高校 15:00～17:00	・学校状況説明 ・教職員との意見交換 ・生徒との意見交換	井上、池田、中川、 福井、宮内
H18.7.21(金)	隠岐水産高校 9:00～11:00	・学校状況説明 ・海洋訓練視察 ・教職員との意見交換	井上、池田、中川、 福井、宮内
H18.7.28(金)	飯南高校 10:30～12:30	・学校状況説明 ・教職員との意見交換 ・生徒との意見交換 ・補習視察	鞆嶋、寺本恵、寺本淳、 福井、宮内、本山
	三刀屋高校 14:00～16:00	・学校状況説明 ・オープンキャンパス視察 ・教職員との意見交換	鞆嶋、福井、宮内、 本山

関係者からの意見聴取の概要

1. 実施目的

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会が、平成21年度以降の県立高校のあり方や再編成等について検討を行う上での参考とするため。

2. 聴取する意見

地域における高校の存在・役割、今後の高校活性化のあり方。

企業が専門高校に期待するもの、今後の専門高校活性化のあり方。

地域産業と水産高校(水産教育)の関係、今後の水産高校活性化のあり方。 など

3. 聴取日時等

日 時

平成19年10月18日(木) 13:30～16:15

第9回魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会

場 所

サンラポーむらくも 「祥雲の間」

4. 意見発表者

発表順	氏 名	意見	時 間	役 職 等
1	やまさきひでき 山碕英樹	2 -	13:45～14:15	飯南町 町長 飯南高校 教育活動後援会 会長
2	まつばらいさむ 松原 勇	2 -	14:20～14:50	島根電工株式会社 人事部 部長
3	おかもとしょうじ 岡本昭二	2 -	14:55～15:25	浜田水産高校 後援会 会長 島根県議会議員
4	あべかずこ 安部和子	2 -	15:30～16:00	隠岐水産高校 後援会 会長推薦 隠岐の町議会議員

5. 意見の要旨

意見発表者1 山碕英樹(飯南町町長、飯南高校教育活動後援会会長)

ふるさとを愛し地域の将来を担う人材を育成する上で、県立高校が果たす役割はきわめて大きい。また、中山間地域においては、県立高校は、地域住民の心のよりどころ、活力の源、地域文化の拠点であり、なくてはならないものである。

地域からあたたかい支援を受けたり、地域の人たちが頑張っている姿を間近で見ることで、生徒の中にふるさとを愛する心が生まれる。これが地域の教育力ということであり、生徒にとっても大きな意味があると思う。

中山間地域は近くに高校がないと進学を断念せざるを得ないこともある。したがって、中山間地域に高校が存続することは、すべての県民に教育の機会を保障するという意味できわめて重要だと考える。

中山間地域にある高校は生徒数の減少が進んでいるが、小規模校の特色やその教育効果を生かしていくことは十分可能である。例えば、保育所から高校までを含めた地域全体を視野に入れた教育を行うことによって、小規模校の課題が解消できないか考えている。中山間地域には高校が必要だと言う以上は、その地域の行政や住民が学校と一体となって取り組み、支援をしていかななくてはならない。また、こうして一生懸命育てた人材が地域のリーダーとして活躍してもらえるように、我々としてもしっかりと受け皿づくりをして行かななくてはならない。

生徒数の減少という現実があるので、地域の内外、あるいは県外からも目指してもらえような高校づくりを進めなくてはならない。そのためには、情熱あふれる先生の育成が必要だし、教職員数も、小規模化するのに合わせてただ減らすのではなく、過疎地域の高校には基準より多くの教職員数を配置するような制度も必要ではないか。

< 主な質疑 >

委員

どの学校のPTAも会員の数が減ってきて厳しい財政状況にあるが、飯南高校に対する町としての財政支援は今後とも維持できそうか。

山碕氏

非常に厳しいが、地域の高校として飯南高校を必要としている以上、できるだけことはしていこうと思っている。

意見発表者2 松原勇(島根電工株式会社 人事部部長)

企業の社会貢献は「雇用」「納税」「人材育成」の3つが中心。現在、製造業は非常に好況で元気があるが、地場企業、特に建設業は非常に疲弊しており意気消沈している。ただ、世代交代とか会社の存続を考えると、ある程度の採用はこれからも必要であり、就労者確保は大きな課題である。

専門高校については、地元企業への就労者供給という視点を今まで以上に重視し、地元企業の求人が充足できるような再編成をお願いしたい。

高校側では「待つ進路指導」から「攻めの進路指導」への転換をお願いしたい。求人票が到着するのを待つのではなく、学校の方から企業に出向いてアプローチするというのもこれからは必要になるのではないかと。

専門高校に入学した生徒には、入学直後から就労意識や職業意識を育てるような指導を重視していただきたい。あわせて、地域の活性化とか、自分が将来この地域を担っていくんだという気概を持つような指導もしていただきたい。

就職指導においては、本人がどうしようか迷ったときには「ぜひ地元」というアドバイスをしていただきたい。都会に出てもUターンで戻って来ることが多いが、そうであれば初めから地元に残って地元のために働いた方が良いという指導をお願いしたい。

行政へのお願いとしては、地元企業への早期求人の働きかけと若者の定住対策をもっと強力に推し進めていただくと、就労意識や地元への就職意欲がさらに上向いてくるように思う。

< 主な質疑 >

委員

学校側からも売り込みをという要望があったが、企業側からの売り込みはどうか。企業の売り込みがよければたくさんの応募者があり、選考に困るようなこともあり得るのではないかと。

松原氏

企業の努力がやはり一番大きな問題だと思う。ただ、当社の場合、何十年も継続して採用を行っており、高校へも継続的なアプローチを行っているが、それにもかかわらずここ3年は予定数を充足していない。これには何かほかの要因があるのではないかと。

意見発表者3 岡本昭二(浜田水産高校後援会会長、島根県議会議員)

県議会で水産高校について質問したときに、いろいろ調べて一番驚いたのは、水産高校でありながら、卒業生で水産業につくものが2、3人しかいないということだった。また、地域と学校との連携、水産業との連携もほとんどできておらず、県の水産計画の中にも水産高校の役割が全く位置づけられていなかった。ちょうど水産計画の見直しの時期でもあるので、力を入れていきたい。

水産業そのものが変わってきた。そういう水産業の流れから全く離れたところに水産高校があるべきではないと考える。つくり育てる栽培漁業が重要であるなら、高校3年間でさまざまな漁業の体験をさせ理解させた上で、水産試験場に研究生とか研究員として残し若者定住につなげていく。そういう地域活性化の役割を水産高校も担うべきではないか。

地域と連携がとれていないため、学校も地元企業がどういう人材を求めているかわからず、就職時期になって頭を下げるだけでは希望がかなえられない。各専門高校でも地元が求める人材を把握する努力が必要である。

地元就職しようとしてもなかなか高校生が採ってもらえない一番の理由は、生徒が常識に欠けていて、あいさつもできないから、採用しても1年ほどは使いものにならないということがある。そのため高校生よりも大学生を採った方が即戦力になっていいということになる。もっと人間性や一般常識を身につけるような教育をすべき。

それぞれの地域に拠点校をつくるという考え方があってもいいのではないか。優秀な生徒を育てるには、拠点となる学校が必要である。水産高校と商業高校を一緒にするという意見もあるが、そうすると地域の拠点校が小規模化する可能性がある。統合して総合学科にするという意見もあるが、県内の総合学科を見るとあまりいい状況にはなっていない。

したがって、再編成を考える場合、水産高校はほかの高校と一緒にするべきではない。たとえば生徒が20人になっても単独で残すべき。たとえば、日本海側には水産高校があるが瀬戸内海側にはない。そういう地域からも子供がやって来るような魅力のある学科、たとえば魚をつくり育てる水産資源学科でもつくって、全国からでも人を呼べるような学校にしてはどうか。

意見発表者4 安部和子(隠岐水産高校後援会会長推薦、隠岐の島町議会議員)

JFは職員の70%強が水産高校のOBで占められており、水産高校で基礎を学んだことが経験豊かな漁師になることにつながっている。隠岐汽船も船舶乗組員88名のうち、80名が隠岐水産高校のOBである。隠岐島の住民にとって隠岐汽船はなくてはならない存在であり、それを支えているのが隠岐水産高校の卒業生である。

隠岐水産高校の加工技術は地域の評判がとてもよく、塩ジャケや各種の缶詰は瞬く間に品不足となっている。この水産加工技術をもっと発展させて、地元の特産品に育てていきたいと考えている。

経済の低迷につれて、水産高校を卒業してもなかなか漁船に乗って働けない状況であるが、だからといって隠岐島から水産高校を引き揚げてしまえば、人口流出は一層進み、島はますます衰退の一途をたどることになる。

隠岐の島町では間伐材を利用した木質バイオマスに注目している。言うなれば隠岐島周辺の海域すべてを魚礁にする計画である。日本の食の自給率は40%と言われているが、5年先の自給率60%を目指し、動物たんぱく源から水産たんぱく源へと比重を移すことに国も全力を注いでいる。こういう状況の中で、隠岐島に水産高校がないということは到底考えられない。

海上保安庁の船員不足が問題になっている。また、海難事故多発の原因に日本人船員の不足を指摘する声もある。日本が真の海運立国を実現するためには、すぐれた日本人乗組員をたくさん養成することが必要ということ。いずれ高度な水産技術を習得するために、全国から若者が隠岐島へやってくると思っている。

<主な質疑>

委員

全国から生徒を呼び寄せるための方策は何かあるか。

安部氏

島外から生徒を連れてくるには宿舎が必要であり、そういう問題も解決しなければ全国的に生徒を募集することは難しい。下宿とか民泊といったことも考えられるが、受け入れ体制を先につくって、いつでも入れる形にすることが必要ではないか。

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会「中間まとめ」に対する
意見募集（パブリックコメント）の結果について

魅力と活力ある県立高校づくり検討委員会

46の団体・個人の方から73件・44項目のご意見をいただきました。（同主旨のご意見はまとめさせていただきます。）

募集期間 平成19年12月26日(水)～平成20年1月25日(金)

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
1	少子化に伴い、それに見合った学校数にすることは当然であるが、その内容についても時代にあった多様化が必要である。社会が必要とする人材を育成するのが学校教育だと考える。	1	生徒数の減少や社会情勢の変化に対応して魅力と活力ある高校づくりをしていくためには、高校の配置や規模とともに、地域社会との連携や高校の社会的役割なども含めた高校教育のあり方が重要であると考えており、それも加えて提言することとしました。
2	企業から見て、学生たちには「知識」はあっても「知恵」、即ち工夫する力は備わっていない。自分の考えをきちんと伝える力を磨くためコミュニケーション教育の推進が必要と考える。また、指導にあたる教職員は変動の多い社会を広く見渡せる力を養ってほしい。	1	何事に対しても自ら考え行動することができる主体的な意欲と態度を培うためには、教科・科目の学習をはじめとして、総合的な学習の時間や部活動など教育活動全体を通して取り組む必要があると考えます。また、次代を担う生徒を育てる教員は自己研鑽に努めることはもとより、長期社会体験研修など組織的な研修についてもこれまで以上に充実していく必要があると考えます。
3	自分や郷土に誇りをもち、人にきちんと紹介できるよう、本県の歴史や生活文化等について学び、身につける時間を設けることが必要ではないか。	1	各高校では、これまでも学校行事、総合的な学習の時間、ホームルームなどを活用し、地域の伝統文化や産業の学習、清掃活動などに取り組んでいます。また、学習成果の発表など教育活動の地域への情報発信にも取り組んでいます。
4	高校が地域との関わりを深くすることは、地域の活性化にもつながるし、双方が積極的に関わることで、自然に見守りの体制と支え合う心が芽生える。このことは高校生の自主的な地域社会への貢献と、落ち着いた、明るい、目的を持った学校生活へと導いている。このような高校の積極的な働きかけと地域の支援を評価してほしい。	2	これまで以上に地域について学んでいくためには、地域の人材を講師として活用できるなど、地域社会の協力・支援が必要であると考えます。
5	高校が、平素から地域住民への情報発信や地域行事への参加など地域コミュニティや文化の拠点としての役割を果たしているのか県教委で把握・評価しておいてほしい。	1	

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
6	地域と連携した教育に取り組んでいる高校もあるが、さらに産官学の連携による教育を推進するため、中山間地域研究センターとの連携、相互研究などを行うシステムを創出してほしい。	2	既に農業大学校や中山間地域研究センター、県立大学等との連携などに取り組んでいる高校もありますが、今後も研究・教育機関との連携などを通して教育内容の一層の充実を図る必要があると考えます。
7	専門的な自己研鑽の場として、学校図書館の蔵書の充実を望む。また、学校に専門性があるように学校図書館も学校ごとに特色をもたせても面白いし、品格を高める勉強の場とすることも必要である。	1	学校図書館は、生徒の学習の場としてはもとより、知性や感性など豊かな人間性を培う場として重要であり、校内での読書活動の中心的な役割を果たす司書教諭の任命など、今後もその充実にも努める必要があると考えます。
8	普通高校においても「若年者の県内定住」を考えさせる必要はあるため、そのことを明記してほしい。	1	ご意見に沿って記載します。
9	総合学科の目指しているねらいが達成できているのか、生徒のニーズに応えた学習が展開されているのか、今一つ成果が見えてこない。	1	総合学科については、その成果と課題を検証しつつ、今後の入学志願者の動向によっては、生徒や地域のニーズに応じた系列の見直しなど、さらに改善を行う必要があると考えます。
10	中学生の段階では自分の適性や能力等を客観的に認識する力が十分でないことや、現在は総合的な思考が求められるようになってきていることから、理数科の設置には疑問を感じている。設置するとしても高校入学後2年生で選択するシステムにすることが適当と考える。	1	理数科は自然科学や科学技術のめざましい進歩、国際化や情報化、さらには、環境問題への関心の高まりなどの社会の変化に対応できるよう、科学的、数学的な能力を高め、柔軟な思考力や新しい進歩を生み出す創造的な能力を育成する必要があることなどから設置されています。ご指摘の点については、今後も体験入学などを通じた学科紹介や中学校における進路指導の充実にも努める必要があると考えます。
11	自分の体を育て、大切に作る体育はとても重要な科目である。呼吸の仕方、怒りの静め方、養生(ダイエット)の仕方等は生の基本であり、スポーツとは異なった体育の分野の重要性を評価、記述してほしい。	1	ご意見の内容は大切なことであり、教科「保健体育」をはじめとして、ホームルーム、学校行事、生徒会活動など教育活動全体を通して指導していく必要があると考えます。
12	芸術科(音楽・美術)、博物科(地学・生物・地理を併学)、歴史文学科などを設置すべきである。また、これらの学校には寄宿舎を設け県外の生徒をかなりの数受け入れるべきである。	2	新たな学科の設置については、生徒の学習ニーズや高校卒業後の進路などについても十分検討したうえで、設置の必要性について論議する必要があると考えます。

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
13	地球環境の悪化が問題視されている中で、環境関係の専門科が県内からなくなることはいかなものか。レベルの問題もあるが、意識の問題でもある。また、保護者の教育費の負担も考えておくべきである。	1	近年は環境問題への関心が高まってきているため、環境に関する学習については、農業、工業、商業、水産などの専門学科をはじめとして理科、公民科などの普通教科や総合的な学習の時間などにおいても行われています。
14	中高一貫教育の連携型では、中学校と高校が取り組める分野が限られており、あまり評価は得られないのではないかと。	1	連携型は、高校と中学校との交流を通して共通理解を深めたり、学習指導の工夫を行うなど、生徒の個性や能力に応じたきめ細かな教育を行うことが可能であり、今後も教育内容の充実と課題の改善に努める必要があると考えます。
15	学力とその学力を活かせる感性や知性を備えた「人材」育成を図る観点から、今行われている連携型を一步進めて、中・高の6年間をかけて徹底的に学力と人間力を養成する中高一貫教育を導入してはどうか。	1	併設型や中等教育学校の導入については、目的(育てたい生徒像)、地域・学校の要件(生徒数、選択肢の有無など)、既存の小中学校への影響(受験競争の低年齢化、生徒数の減少)なども慎重に検討する必要があると考えます。
16	今後の中高一貫教育について、併設型および中等教育学校を含め、都市部に限らず全県域を対象として積極的に検討してほしい。	3	
17	津和野藩の藩校「養老館」以来、長年にわたり培われた教育に関する伝統、風土を有する津和野町に併設型中高一貫教育を導入してほしい。	1	
18	高校における特別支援教育について、教育環境の整備や教育内容・方法の工夫などの必要性を感じている。早急に対応してほしい。特に小規模化の進む離島の高校には、他の高校にはない魅力と活力ある教育の一環として、特別支援教育の充実が必要である。	1	すべての高校において特別支援教育への対応が必要であると考えます。なお、今後の生徒数の減少を考えた場合、将来的に高校と特別支援学校をひとつの学校とすることについては、地域の特性、生徒数、障害の程度等に配慮しながら高校教育のあり方のひとつとして研究することも考えられます。
19	高校と特別支援学校の連携をより一層深め、例えば将来的には高校と養護学校をひとつの学校にすることなども研究してほしい。	2	

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
20	「ものづくり」を担う企業では熟練工の必要性が指摘されている。技能は若い内に習得するほうが良いと考える。その点において専門高校の存在価値がある。	1	専門高校の必要性についてはご意見のとおりと考えますが、社会が著しく変化し、産業構造や就業構造が大きく変わりつつある中で、専門高校・学科によっては入学者が減少したり、卒業後の関連分野への就職・進学者が減少している学校もありますので、本県の産業構造や産業振興との関わりなども十分把握したうえで、新しい学科や高校のあり方を検討していく必要があると考えます。また、関係業界からの具体的な提案を受け、教育課程の工夫を行うなど、可能な限り要望に対応した教育を行う必要があると考えます。加えて、これまで以上に地域産業界の講師を活用することについても検討する必要があると考えます。
21	これからの企業存続に必要な技術・技能の継承や人材確保・育成のため、さらには若年者の県内定住を促進する上でも、専門高校が必要であり、専門高校でより充実した教育が行われ、確たる将来目標や職業意識を持った人材の育成を図ることが重要である。また、時代の要請に応じた教育も必要と考えられるため、業界から講師を派遣することも検討してみてもどうか。	4	
22	県内産業の担い手を育成する専門高校の役割を考慮し、専門高校の学級減は極力避け、時代の要請に応じた学科改編などの適切な対応を行う。	1	
23	専門学科は、その設置目的から、現在においても生徒あるいは家族、地域が必要としている。また、一部の専門学科は地域との関わりを緊密にすることにより地域の活力にも貢献している。このような点を踏まえ、極端なケースを除き定数規模の概念をなくしてほしい。	3	
24	社会のニーズに対応した高校づくり、島根県の将来を担う人材育成の観点から、地域の産業振興を考えた意見をもっと尊重すべきである。	1	
25	高度な専門技術者(職人)育成のためには、3年課程では短すぎる。例えば高専のような5年課程の高度な職業教育制度を導入することの検討も重要かと思う。	1	専門技術者を育成する機関としては、専門学校や高専、大学、高等技術校などもあるため、5年課程の導入については慎重な検討が必要であると考えます。なお、水産高校には3級海技士免許取得のための乗船実習を中心に、より高度な専門教育を行う2年課程の専攻科(本科卒業後)が設置されています。

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
26	今後の中学校卒業生数を考えた場合、適切な地域で適切な統廃合による学級減を段階的に行い、望ましい規模の高校づくりを行うことは避けられないと考えられる。学級減は生徒数の減少が多い地域で行う配慮が望まれる。	1	今後の中学校卒業生数の減少に対応し、高校の教育環境と教育水準を確保するためには、基本的に一定以上の生徒数や学校規模が必要であり、学級減による対応が困難な場合には、高校の統廃合についても検討することが必要であると考えます。しかし、その一方で高校教育の機会均等や地域における高校の存在意義などについても考慮する必要があると考えます。また、水産高校については、近年、入学者が減少傾向であり、卒業後の関連分野への就職・進学者も少ない状況にあるため、地域の実態や本県の水産業振興との関わりなどを含めて、今後10年間を見通した総合的な検討が必要であると考えます。なお、高校の選択においては、生徒の希望が尊重されるべきであると考えます。
27	生徒の通学や地域への人材供給の観点から、公立高校の県内配置は現状を維持してほしい。水産高校も県内水産業の拠点地にあるため、2校とも残すべきである。	1	
28	高校の統廃合には反対である。第1志望を近くの高校にすれば統廃合はなくなるのではないかと。	1	
29	学校の標準規模の設定はある一定の目安としては必要と思うが、規模に固執すると生徒の様々な希望に対応できなくなる可能性もある。選択肢を維持し学校を活性化し、子どもたちの健全な成長と明るい将来を目指すことが今の時代に求められているのではないかと。	2	
30	画一的な教育ではなく、地域の文化、伝統、産業を伝えるためにも高校の配置を考えるべきであり、特に県境付近にある高校を重視すべきである。また、地域から高校がなくなることによる親の経済的な負担増や教育の機会均等について配慮すべきである。合理化ばかりでは県を思うよい人材は育たない。	4	
31	隠岐の島は、地理的ハンディの他、物的・経済的にも大きな負担を余儀なくされている。高校教育の機会均等を図る意味においても、地域の活力を失わないようにするためにも、隠岐の高校は多少生徒数が減少しても、現在のまま存続できるよう、特例として検討してほしい。特に水産高校はたとえ1学年1学科1学級となっても単独の専門高校として存続させるべきである。	4	

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
32	地域から学校がなくなることは地域活力の低下につながる。また、学級数だけで教職員定数を決めるのではなく、進路保障や特別支援教育への対応など一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育支援体制をつくるためにも国に対して教職員定数の見直しなどの働きかけをしてほしい。	3	県立高校の教職員定数は、いわゆる「標準法」の定めるところにより、基本的に学校規模(学校全体の収容定員)に基づいて決まるため、生徒数の減少により、小規模化が進む中山間地域の高校の教育環境と教育水準を確保する観点から、教職員定数の見直しなどをこれまで以上に強く国に働きかけていく必要があると考えます。
33	僻地の学校ほど生徒は少なくとも、成績も幅があったり、進路状況もまちまちであるなど生徒のニーズは多様化している。学校の実態や地域に応じた教員数を配置してほしい。	1	
34	離島や中山間地域の高校の小規模化という課題は、全国(海外)的に多数あると思われる。同じ課題を持つ都道府県と連携して解決方法を検討したり、共同で国へ提言を行うなどの運動を展開すべきである。また、他の都道府県の高校生と交流したり、生徒を受け入れたりすることも検討する必要がある。	1	少子・高齢化により全国的に生徒数が減少しており、他の都道府県においても高校の再編成が進められていますが、本県と同様の課題をもつ都道府県と連携して国に働きかけていくことも必要であると考えます。また、他の都道府県の高校生との交流については、その意義などを検討したうえで、実施することも考えられます。なお、県外からの生徒の受け入れについては、一家転住等の場合を除き、一定の制限が設けられていますが、中山間地域の高校においては、入学定員の範囲内で柔軟な対応も可能となっています。県外からの生徒の受け入れを進めるためには、これまで以上に地域社会との連携を深め、魅力ある学校づくりが必要であると考えます。また、県立高校の1学級当たりの定員や教職員定数は、いわゆる「標準法」で定められているため、生徒数の減少により、小規模化が進む中山間地域の高校の教育環境と教育水準を確保する観点から、1学級当たりの定員や教職員定数の見直しなどをこれまで以上に強く国に働きかけていく必要があると考えます。
35	県境付近に位置している高校は県外からの枠を撤廃することにより入学者の増加が期待できる。特に周辺の高校に設置されていない専門学科は確実に増える。また、中山間地の高校では、将来1学級40名の定員を確保することができなくなると予想されるので、30人に引き下げてほしい。	7	
36	高校の統廃合の問題は離島にとって大変重要な問題であり、地域として取り組みたい喫緊の課題であるが、議論の場や議論の醸成のための方策についてどう考えているのか。高校・県としてどのような体制をもって地域と取り組んでいくのかも含めて示してほしい。	1	各高校のPTA、卒業生会、学校後援会あるいは地元自治体などにおいて議論していただくことも考えられます。特に中山間地域の高校の活性化のためには、地域社会の協力・支援が必要不可欠であり、地域での議論を踏まえて、高校・県教育委員会に提言・協議していただくことも必要であると考えます。

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
37	離島や中山間地域の高校が統廃合とならないような魅力ある高校づくりについても議論してほしい。	2	魅力ある高校づくりをしていくためには、基本的には一定の生徒数や学校規模が必要であると考えますが、特に中山間地域の高校においては、これまで以上に地域社会との連携を深め、教育内容の充実に努める必要があると考えます。そのためには地域社会の協力・支援を得て、取り組む必要があると考えます。
38	中山間地域の高校では生徒募集のため、地域とともに様々な取り組みが行われているが、他地域からの通学の利便性を向上させるため、関係機関へ働きかけてほしい。また、寮を整備・充実してほしい。	2	高校教育の機会均等を図る観点から通学の利便性の向上について、今後も地域と協力して関係機関に働きかけていく必要があると考えます。また、必要に応じて寮の整備・充実を図る必要があると考えます。
39	地元に残したいのであれば、寮の配置校数を減らすなど地元から高校生が離れない工夫が必要である。同時に地元の学校の進学指導体制を整えることなどを考える必要もある。寮の配置を見直すことによって生まれる財源で学校の整備や教員の増員ができるのではないか。	1	県立高校の寄宿舍は、本県の地理的特性や通学事情などを勘案し、高校教育の機会均等や経済的負担の軽減を図るため設置されています。加えて中学校卒業後の進路については、生徒の選択が尊重されるべきであると考えますので、現時点において寄宿舍の配置を見直すことが適切とは考えられません。なお、県立高校の寄宿舍は、平成19年度現在で、27校に設置(うち1校は休止中)されており、舎生数は674名となっています。寄宿舍の運営費のうち、光熱水費の使用料と食費は受益者負担ですが、光熱水費等の基本料金や調理員の人件費は県費負担となっています。
40	県立高校の全日制課程に進学する生徒が減少する理由は単に人口減少だけでは考えにくい。平成19年3月の県内中学校卒業者のうち約24%の生徒は、私立高校、特別支援学校高等部、定時制・通信制課程高校、高等専門学校、県外等に進学している。特に通信制課程に在籍している生徒の比率が全国でも高い割合である。それぞれへの進学者数がどのように推移しているのか、その原因は何か、検証する必要がある。	1	本県は通信制課程に在籍している生徒の比率が高いという指摘ですが、本県の場合、在籍年数の制限はありませんが、制限している都道府県もあり、単純に比較することはできないと考えられます。また、中学校卒業後の進路については、県内地域ごとの中学校卒業生数の推移、他地域との出入、高校以外に進む者について、過去の実績を基に将来の推計をしています。中学校卒業後の進路選択の理由を特定することは困難ですが、価値観やライフスタイルの変化により、生徒の学習ニーズが拡大・多様化してきていることも要因のひとつと考えられます。
41	高校の統合によって、歴史と伝統ある校名が失われるのはいかなるものか。	1	卒業生や学校関係者の校名への愛着も理解できますが、それぞれの学校のこれまでの歴史と伝統を引き継ぎながらも、統合新設校としてスタートを切るという観点で見ると、新たな校名となることはやむを得ないと考えます。

番号	意見(要旨)	件数	考え方(案)
42	松江市内普通科3校の通学区域は、生徒の個性や能力に応じた幅広い学校選択を確保するため、撤廃すべきである。それぞれの学校が工夫・努力し、特色と魅力ある学校をつくること本来のあるべき姿である。	2	松江市内3校の普通科の小学区制については、平成18年7月の県立高等学校通学区域検討委員会答申において、小学区制を撤廃した場合、3校の序列化、ひいては3校による切磋琢磨の成果が失われることも懸念されるため、小学区制は維持しつつも、選択幅をできるだけ拡大する観点から、「自由枠」の導入が提言されました。県教育委員会では、この答申を踏まえ、平成20年度の入学者選抜から自由枠の導入など通学区域の見直しを実施することとしました。今回の見直し後の状況を注視していきたいと考えています。(高校教育課)
43	検討委員会の高校視察10校の意見・提言、思い等も資料として公開してほしい。	1	高校視察の際の意見などの公開については、学校や生徒の事前了解を得ていませんので、公開することは考えていません。なお、公開している会議録には学校視察の感想などを含む委員の発言を記載しています。
44	意見募集の期間が短く、保護者や地域の人にほとんど周知されていない。再公募を検討してほしい。どの地域の意見が何通くらいあったのか資料を示してほしい。	1	県が実施するパブリックコメントによる意見募集期間は1月程度が一般的です。また、ホームページへの掲載、新聞による広報、しまねwebモニターへのメール送信により周知していますので、再公募することは考えていません。なお、意見提出者の市町村別内訳は、次のとおりです。

意見提出者の市町村別内訳

住所(市町村)	提出者数	住所(市町村)	提出者数
松江市	5	津和野町	5
東出雲町	1	吉賀町	2
出雲市	5	隠岐の島町	2
大田市	1	海士町	7
邑南町	8	西ノ島町	1
江津市	1	知夫村	2
益田市	3	不明	3
		計	46